

2 塘沽停戦協定善後交渉

225 昭和9年1月9日 在中国中山公使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

北平郵政管理局郵務長より古北口における中國側郵便局再開方申入れについて

北平 1月9日後発
本省 1月10日前着

第一號
本官發滿宛電報

第三號

往電第六九號、第七五號二關シ

九日「ボレツチ」ハ館員ニ對シ方振武事件モ最早片附キタルニ付古北口ニ於ケル支那側郵便局ヲ再開シタキ旨申出有リタリ其ノ際「ボ」ハ右再開ニ關シ日本出先官憲ハ(一)滿洲トノ郵便物交換ヲ認ムル事(二)支那側ノ配達ヲ許サス滿洲國側ニ於テ配達ヲ引受クル事ノ二條件ヲ提出シ居ル處(一)ノ點ニ關シテハ南京政府ノ反對有リ自分トシテハ政治問題ヲ交渉スル權限無ク自分ノ權限内ノ便法トシテ現ニ山海關承知アリタシ

貴電第七號ニ關シ
二十三日古北口警備隊長ヨリ第八師團ニ對スル報告ニ依レハ(一)滿洲國發郵便ハ古北口及其附近ノ住民宛ノモノハ無料配達ヲ認ムル事及(二)古北口住民發滿洲國宛郵便ニ付テハ山海關ニ於ケルト同様「ポスト」交換ニ依ル方法ニテ話合纏ル見込ナル趣ナリ右貴地武官室ニ轉電濟ノ八師統治ニ依リ承知アリタシ
大臣、天津、承德へ轉電セリ

227 昭和9年2月12日 在中國中山公使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

古北口經由郵便物の取扱方法に関するポスト設定期による交換方式を中國側了承について

北平 2月12日後発
本省 2月12日後着

付記 二月十日付

第六二號
本官發滿宛電報

貴電第四號ニ關シ

ニ於テ行ヒツツ有ルカ如キ方法(支那側郵便局ニテハ滿洲國郵便局カ一定ノ函ニ投入スル郵便物(普通ノ信書ニ限り小包及書留ハ此ノ限りニ非ス)ヲ事實上受取り之ヲ配達シ居レリ)ニ依リ度ク(一)ノ點ニ關シテハ支那領土内ハ支那側ノ配達ヲ許サレ度キ旨ヲ述ヘ我方ノ好意的考慮ヲ希望セリ就テハ本件ハ先方ニ回答ノ都合モ有リ何分ノ儀御回電ヲ請フ

承德へ轉報有リ度シ
大臣、支、天津へ轉電セリ

226 昭和9年1月27日 在滿州國蒙刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

古北口經由郵便物の取扱方法をめぐる現地交渉妥結の見通しについて

新京 1月27日後発
本省 1月27日後着

第一〇三號
本使發北平宛電報
第五號

右ノ趣ハ早速館員ヲシテ「ボレツチ」ニ傳ヘシメ置キタル處其ノ際「ボ」ハ第二點ハ自分一存ニテ決シ得ス南京ニ照會ス可シトノコトナリシカ十二日來翰南京側ヨリ右ハ主義上不可ナルカ不可抗力ニ基ク一時的辦法トシテ認メ差支ナシトノ回答ニ接シタルニ付直ニ代表者ヲ古北口ニ派遣シ右「ライン」ニテ交渉ノ上郵便事務ヲ再開シ度キ旨述ヘタル趣ナリ同地守備隊長ニ御傳ヘヲ請フ
承德へ轉電アリ度ク大臣、支、天津へ轉電セリ

編注 右中國側郵便局は二月二十日に再開。

228 昭和9年2月13日 在天津稟原總領事より
広田外務大臣宛(電報)

現地陸軍側より「山海關附近接收ニ關スル申合事項」送付について

天津 2月13日後発
本省 2月13日後着

*第三八號

往電第三五號ニ關シ

本十三日軍側ヨリ山海關附近^(近次)接收ニ關スル申合セ事項正文ノ送付ヲ受ケタルニ付右電報ス尙本件申合セ成立ニ付テハ支那側ニ於テモ其ノ立場ニ依リ兔角ノ意見ヲ生スルモノアルニ付當分ノ間我方限り含ミ置ク程度ニ取扱ハレ度シトノ軍側ノ申添ナリ(以下別電)^(見当テ)

(付記)

山海關附近接收ニ關スル申合事項

昭和八年十一月九日停戰協定善後處理ニ關スル申合事項

(第一乃至第三)ニ準據シ、昭和九年二月十日、關東軍代表、

陸軍步兵中佐儀我誠也、華北當局代表督察專員陶尚銘ト山

海關ニ會同シ、山海關附近接收ニ關シ左ノ通申合ヲナス

第一、接收地域ハ其特異性ニ鑑ミ反日排外策ヲ禁止ス

第二、接收地域ノ行政ハ特ニ在留日本人並關内外人雜居ノ關係上其生命財產ノ保護並權益ノ保障ニ關シ格別ノ考慮

ヲ拂フ

第三、接收地域ノ治安維持ニ關シテハ特ニ相互對立感情惡化

ノ原因除去並取締ニ努力ス
接收地域ハ警察員ノ兵式武裝並兵器格納ヲ禁止ス
但シ警察武裝(護身用兵器(拳銃、刀劍))ハ此限ニ非ス
第四、接收地域主要行政機關ハ必要ニ應シ或ハ日本人ヲ以て事務囑託ス、但シソノ人選ニ關シテハ相互商量決定スルモノトス
第五、關東軍指定殘留機關左ノ如シ

稅關

旅券查證辦事處

國境警察隊

國境檢疫所

郵政局

電報局

專賣分署

綏興稅捐局駐關分卡

中央銀行

第六、日本軍駐屯ノ爲必要ナル土地建物左ノ如シ

關東軍特務機關並附設軍通信所

關東軍憲兵隊

山海關附近接收ニ關スル申合事項

昭和八年十一月九日停戰協定善後處理ニ關スル申合事項

(第一乃至第三)ニ準據シ、昭和九年二月十日、關東軍代表、

陸軍步兵中佐儀我誠也、華北當局代表督察專員陶尚銘ト山

海關ニ會同シ、山海關附近接收ニ關シ左ノ通申合ヲナス

第一、接收地域ハ其特異性ニ鑑ミ反日排外策ヲ禁止ス

第二、接收地域ノ行政ハ特ニ在留日本人並關内外人雜居ノ關係上其生命財產ノ保護並權益ノ保障ニ關シ格別ノ考慮

ヲ拂フ

第三、接收地域ノ治安維持ニ關シテハ特ニ相互對立感情惡化

關東軍軍事郵便局

關東軍警備隊用宿舎

戰死者合葬ニ必要ナル土地

第七、接收地域ノ社會施設ハ特ニ意ヲ須ヒ速ニ所要ノ施設ヲ行フ

接收前既ニ着手セル電燈事業ハ之ヲ承認シ且便宜ヲ與フ

ノ

編注 本文書は、東亜局第一課が昭和九年十二月に作成した議會調書「最近支那諸問題摘要(第六十七議會用)上卷」より採録。

229 昭和九年2月15日 在滿州國菱刈大使より
廣田外務大臣宛(電報)

塘沽停戰協定善後処理に関する申合わせ事項の実行を四月上旬には着手すべき旨黃郛言明について

頃合即チ四月上旬頃ニハ是非共申合セ事項ノ實行ニ着手スル決心ナリト答ヘタル趣向電アリタリ

新 京 2月15日後発

昭和九年三月四日

關東軍代表陸軍歩兵中佐 松井源之助
華北當局代表督察專員 殷汝耕

附屬覺書

- 一、警備隊ノ附屬設備中ニハ飛行場ハ勿論、通信所、病院、諸倉庫、警備隊用宿舍、各種工事等ヲ含有ス
二、古北口公安局ノ人員ハ約三十名ヲ限度トス
三、古北口公安局ノ人員ハ約三十名ヲ限度トス

昭和九年三月四日

關東軍代表陸軍歩兵中佐 松井源之助
華北當局代表督察專員 殷汝耕

- 232 昭和9年3月24日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)
通車問題に關し天津方面での日本軍の強硬態
度緩和方塘有壬要望について

南京 3月24日前發
本省 3月25日後着

*
第二五五號

- 三、(2) 夫ニシテモ打明ケテ申上度ハ通郵通車ノ問題ニシテ前者
ハ法律的問題トシテ片付ケ得ルトシテモ通車ハ取モ直サ
ス支那ノ滿洲國承認トナルヘシトノ觀測行ハレ之ニハ黃
向鮮カラス(以上諸點ニ付本官ヨリ一々納得ノ行ク様説
明ヲ加ヘ置キタリ尙往電第二五六號御参照)

郭モホトホト困却シ居リ實ハ自分ハ此ノ際何トシテモ最
後迄頑張ル様黃郛ニ勸誘ヲ兼ネテ北上セル次第ナリ(往
電第二四二號參照)先日有吉公使ニモ御願シタル通り日
支直接ノ問題タル航空聯絡協定ヲ先ニシテ言ハバ間接ナ
ル通車問題等ヲ後廻シニスルノ辦法無キヤ種々研究中ナ
ルカ北方殊ニ天津方面ノ日本軍部ニ於テハ岡村參謀副長
ノ面子問題ニモ引揚ミ此ノ際至急通車問題等ヲ解決スル
コト絶對必要ナリト意氣込ミ居ルラシク右ハ單ナル嚇カ
シニアラサルヲ觀取セルニ付何トカシテ之ヲ軟ラクル方
法モ無キヤト内々御相談申上クル次第ナリ(之ニ對シ本
官ヨリハ相當機微ノ關係モアリ何レ後日更ニ御話スヘシ
ト應酬シ置キタリ唐ノ立場モアリ會談内容極秘トセラレ
タシ)

233 昭和9年4月14日 在中國有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

通車および通郵問題への中國要路の対応振り
に関する情報について

二十三日歸寧セル唐有壬ノ本二十四日本官ニ對スル談話要
領左ノ通

一、在平六日、在津二日ノ後南昌行ノ豫定ヲ變更シテ不取敢
處黃郛ハ豫想以上ニ悲觀シ居リ四月初旬南下ノ豫定ナル
モ再ヒ北ニ歸ルヤ否ヤ逆賭シ難キ形勢ニアリ

二、黃郛ハ舊東北系ノ將領間ニ反熱相^(對立)高ク又天津方面ニ於ケ
ル邦人ノ間ニモ種々策動スルモノアルヲ氣ニ病ミ居ルカ
一方支那人間ニハ察哈爾及內蒙ニ於ケル形勢ヨリ見テ日

蘇間ニ何等危急ノ状態展開スルニ非スヤ又日本人カ曩ニ

長城ヲ以テ滿支間國境ヲ限りタルハ行々ハ內蒙全部ヲ滿

洲國ニ包含セシメントスル魂膽ニ出テタルモノニテ旁今

尙日本ハ北方ニ於テ何ヲ仕出カスカ分ツタモノニ非ス現

ニ津浦沿線演習問題モ其ノ一ノ現ハレナリト觀察シ居ル

向鮮カラス(以上諸點ニ付本官ヨリ一々納得ノ行ク様説

明ヲ加ヘ置キタリ尙往電第二五六號御参照)

四、夫ニシテモ打明ケテ申上度ハ通郵通車ノ問題ニシテ前者
ハ法律的問題トシテ片付ケ得ルトシテモ通車ハ取モ直サ
ス支那ノ滿洲國承認トナルヘシトノ觀測行ハレ之ニハ黃

*
第二七二號

吳鼎昌(蔣介石ト親交アリ黃郛ノ北上ヲ極力斡旋セルコト
御承知ノ通)ヨリノ聞込トシテ十三日ADノ内報スル所左
ノ通

一、河北通車、通郵等ノ問題ニ對シ汪精衛ハ當初黃郛カ日本
側ニ與ヘタル口約ニ從ヒ解決方許可ノ方針ナリシ處政府
部内ニ相當根強キ反對^(對立)諸者アリ汪ハ之ヲ押切ツテ迄解決
ノ責任ヲ取り難ク一日延ハシニ延ハシ來リタルモノナル
處其ノ結果ハ日本側態度ヲ硬化セシメ黃郛ノ立場頗ル困
難トナリ問題ノ解決ヲ之レ以上遷延スルヲ許ササル事情
ニ立至リタルヲ以テ黃ハ遂ニ蔣介石ノ力ヲ借ル爲南下ス
ルコトトナリタルモノナリ

二、蔣ハ中國ノ現狀ニ於テ黃ノ解決案ヲ認ムル外無キコト承
知シ居ルモ是亦責任回避ノ見地ヨリ汪精衛ヲ南昌ニ招致
シ南昌會議ノ形式ヲ取りタルモノナル處汪トシテハ前項
ノ次第モアリ黃ノ解決案ヲ押付ケラレ政治上ノ責任ヲ負
ハサルルヲ欲セス左リトテ出席セサル譯ニモ行カス澁々

出掛ケタル次第ナリ

三、元來通車問題ニ付テハ同シク汪系ノ失脚ヲ恐ルル顧部長ニ於テ強ク反対シ居リ又通郵問題ニ付テハ朱部長ハ蔣系ナル關係上左程強ク反対モシ居ラサル等ノ關係モアル處何レニセヨ今次南昌會議ニ於テハ河北問題解決ニ付原案ニ對スル修正案トシテ「討價回債」ノ變通辦法發見セラレタルモノト思料セラル

234 昭和9年4月15日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

通車および通郵問題は日本側と中國交通部との協議により解決するのが至当の旨陳公博提

議について

南京 4月15日後発
本省 4月15日後着

第三五二號

十四日陳公博ト會見ノ際陳ヨリ御相談申上ケタキ儀有リトテ河北問題殊ニ通車通郵問題ヲ持出シ最近日本ノ黃郛ニ對スル信賴力動搖シ來レル模様有ルモ自分ノ所管事項ニ付謂

フニ例へハ開灤炭坑「ストライク」ノ際二、三ノ日本浪人カ張大中ヲ煽動シテ險惡ナル空氣ヲ醸釀セシメタル事實判明シ支那側ノ對日空氣モ面白カラサル狀態ナレハ通車通郵モ此ノ儘ニテハ實現シ難カルヘシト述ヘタルニ付本官ヨリ右兩問題ハ何レモ交通上ノ手續問題ト謂フヘク解決遲延ニ依リ滿洲國ノ漢民族ハ勿論支那ノ一般大衆モ鮮ラサル不便ヲ蒙リ居ル次第ナレハ實際的見地ヨリ一日モ早く解決スルコト然ルヘシト力説シタルニ陳ハ御相談シ度キハ其點ニテ支那ハ滿洲國ヲ事實上承認スル事無クシテハ本問題ヲ解決シ得スト考へ居ルニ付問題關係者ヲ全部日本當局者トシ交通問題トシテ朱家驛ト協議セシムレハ一、二週間ニテ片附クヘシト思考セラル處

貴見如何ト述ヘタルニ依リ昨年秋黃郛ハ日本側ニ對シ本件ノ地方的解決ヲ約束シ居タルニ拘ラス今日迄之ヲ解決シ得サル實狀ナレハ中央ニ移シテ話直スカ如キハ以テノ外ナリト述ヘタルニ陳ハ黃郛ノ手ニハ負ヘサル専門的事項モアレハ朱家驛ヲ相手トスルコト解決方法トシテ然ルヘキノミナラス黃郛ヲモ救フ所以ナル可シ實ヲ言ヘハ之ニ依リ孫科ヲ初メ立法委員連中ノ形式的强硬論ヲ避ケ得ル譯ナレハ日本

側ノ再考ヲ促シ度シト繰返シタルニ付本官ヨリ右ハ地方的ニ解決スヘシトノ前述約束ニ反スルモノニテ内部ノ事情如何ニ拘ラス問題トナラストアツサリ應酬セルニ陳ハ南昌會議ノ結果如何ナル可キヤハ知ラサルモ兩國關係ヲ好轉セシムルニハ日本側カ此ノ點ニ付考慮ヲ盡サルルコト肝要ナリト述ヘタリ

支、北平、滿ヘ轉電セリ

235 昭和9年4月16日 在中国中山大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

通車および通郵問題への学生などの反対運動について

北平 4月16日後発
本省 4月16日後着

第一六二號

往電第一五八號ニ關シ

(十六) 日燕京大學學生抗日會ノ名ヲ以テ通車通郵反対ノ宣傳文ヲ多數市中ニ撒布セル者アリ又華北學院ニ於テモ緊急學生大會ヲ開キ燕大抗日會ニ策應ノ決議ヲ爲セル旨聞込ミタ

236 昭和9年5月14日 在中国若杉公使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

黄郛打倒など我が方一部の急進意見に關し通

二對シ順次懇談中ナリ

四、(有野ヨリ往電第三七五號唐有壬ノ本件解決延期ニ關スル希望及往電第三八二號凌啓鴻ノ渡日……態ト氏名ヲ明示スルコトヲ避ケ……等ノ事實ヲ指摘シ既定ノ方針ニ何等變更アリシヤトノ意味ニテ質問シタルニ對シ)事件解決ノ原則ハ南昌會議ニ於テ決定シ居ル次第ニテ汪モ自己モ絶対ニ解決遷延等ノ意嚮無シ自分ニ考ニテハ一日モ早ク通車ヲ實行シ日本側ニ對スル義務ヲ果シ其ノ結果ヲ見テ出來得レハ關東軍側ヨリモ他ノ事件ニ付一、二好意アル取扱ヲ受ケ國民ラシテ懸案解決ノ利益ナルコトヲ了解セシメ更ニ通郵問題ノ解決ニ着手シ度考ナリ尤モ通郵ハ曩ニ自分一個ノ考ニテ各郵務局長ニ對シ密令シアル次第モアリ事實上行ハレ居レリ(此ノ點汪ニモ報告シ居ラスト附言ス)

以上談話中黃ハ先般ノ外務省當局ノ聲明ニ依リ支那側ノ受

ケタル刺戟及之ヲ利用シテ各方面ヨリ忠告狀乃至脅迫狀ヲ寄越ス者鮮カラサルコト(其ノ内禮物ニ紛ラシ拳銃彈六個ヲ送リ來リタル者アル由)等例ヲ舉ケテ説明シ右聲明發表ニ對シ頻リニ不平ヲ述ヘタル由ナルカ之ニ對シ有野ヨリ屢

次ノ貴電ニ基キ篤我方ノ態度ヲ説明シ置キタル由ナリ尙黃ハ北上ノ時期ハ未定ナルモ有吉公使カ本月下旬歸任セラルモノトシ當地ニテ會見ヲ豫期シ居ル旨語リタル趣ナリ以上會談内容取扱上御注意相成度尙又黃ハ此ノ際日本側トノ應酬ヲ一般ニ知ラルコトヲ極力避ケ居リ當日會見(黃ノ希望ニテ親戚ノ宅ニテ會見)ノ事實モ極秘ニセラレ度シト申出テタル由ニテ當方ニテハ右様取扱ヒ居ルニ付御含アリ度シ

238 昭和9年5月17日 在中国若杉公使館(等書記官より
廣田外務大臣宛(電報))

山海關において日滿および中國側關係者により
協議決定された通車問題解決具体案について

北平 5月17日後発
本省 5月17日後着

第二二一號(極秘) 往電第二一五號ニ關シ

通車問題解決具体案協議ノ爲殷同ト共ニ山海關ニ密行セル

柴山武官十六日夜歸來本官ヘノ報告ニ依レハ同協議會ハ十四、十五日兩日山海關ニ於テ秘密ニ行ハレタルカ同會議ニハ滿洲國鐵道總局側宇佐美及後宮少將、北寧鐵路側殷同並ニ當方柴山武官列席大要左ノ通ノ具体案ヲ協定シ殷同ハ今明日中上海ヨリ歸平ノ筈ナル許修直ノ着平ヲ待チテ同案ヲ携行南京ニ赴キ中政會議ニ報告スル筈ニテ殷ハ本案ノ通過ヲ樂觀シ居リ成ルヘク六月中旬少クトモ七月一日迄ニハ通車開始ノ意氣込ナル趣ナリ

右協定案(直通辦法)ノ要點ハ

(一)奉山線及北寧線ノ聯合トモ云フヘキ組織ヲ作り之ヲ東亞○通○運○公○司○組○合○ト稱シ北平、奉天間旅客列車ノ經營ニ當ラシム(同公司ハ滿洲國及中華民國何レニモ屬セサル一種空名ノ擬制的組織ニ過キサルヲ以テ之ニ法人ノ性質ヲ帶ヒシメサル様態ト組合ノ形式ヲ採レルモノナル由)

(二)同公司ノ資本金ハ百萬元トシ兩鐵路側ヨリ各半額宛ヲ出资ス(何レモ名目ニ過キス)

(三)同公司ニ總經理及副經理兼事務主任(會計ヲ含ム)各一名ヲ置キ年期ヲ二ヶ年トシ兩鐵路ヨリ交代ニ選任ス其ノ他ノ業務執行員ハ總副經理協議ノ上推薦ス

(四)同公司ノ營業費ハ營業收入ヲ以テ之ニ充テ利益損失トモ出資額ニ比例シテ收得分擔ス

(五)兩鐵路局ヨリ各二列車宛ヲ同公司ニ貸與ス
(六)直通列車ハ毎日一回北平、奉天双方ヨリ一列車ヲ運轉ス
(七)奉山、北寧兩線乘員ハ山海關ニテ相互交代ス但食堂車乗員ハ交代セス
(八)事故發生ノ責任問題生シタルトキハ山海關以西ニ於テ發生シタルトキハ北寧局ニ於テ其ノ以東ニ於テ發生セントキハ滿洲國鐵路局ニ於テ負擔ス
(九)尙備考トシテ本件ノ發表ハ支那側ト協議ノ上同時ニ爲スモノトシ本件實行細部ノ事項ハ五月二十八日双方北戴河ニ於テ會合決定スヘク通車開始ヲ大体七月一日ト豫定ス右協定案寫郵送ス

支、南京、天津、滿へ轉電セリ

~~~~~

中央政治會議での通車問題解決具体案審議日程  
および連盟決議の実施状況を見極めた上での通

## 郵問題具体案作成方針など唐有壬内話について

付記 六月二十七日付、国際連盟事務局東京支局作成

〔満洲國ノ郵便物ニ關スル聯盟日支紛争諮問委員會ノ決定〕（「コンミニケ第一八四號」）

上 海 5月25日後発  
本省 5月25日後着

第四三四號（極秘）

往電第四〇三號ニ關シ

廿五日唐有壬カ有野ニ内話セル處左ノ通

一通車問題ハ三十日ノ中政會議ニ正式ニ提議スル筈ニテ同

會議ニハ自分出席シ（唐ノ病氣ハ略全快セリ廿七日赴寧ノ由黃郛及殷同ハ上海ニ在リテ會議ニ結果ヲ齎シテ歸

來スル自分ヲ持<sup>待カ</sup>チ其ノ上ニテ殷ハ實行ニ着手スル爲直ニ

北上シ一面中央ニ於テハ之カ實施命令ヲ出スコトニ豫定

シ居レリ

二右發令二次キ前記會議ノ結果ヲ公表スル筈ナルカ其ノ發

表ハ成ルヘク平凡ナル体裁トシ各新聞ニハ發表以外任意

ノ記事ヲ掲クルコトヲ禁止スル豫定ナリ（唐ハ其ノ際日

本側ニ於テモ成ルヘク簡單ナル發表ニ止メ批評的記事特

（付記）  
コンミニケ第一八四號（一九三四・六・二二七）

國際聯盟事務局東京支局

諮詢委員會ノ決定

聯盟日支紛争諮問委員會ハ去ル五月十四日米國ヲモ含ムニ

十二ヶ國代表ノ參加ヲ得テオランダ代表モレスク氏議長ノ下ニ開會シタ。コノ委員會ハ昨年九月滿洲國交通部郵務司長ノ名ヲ以テ英國ロンドン郵便總局ニ對シ滿洲國設置以來英國ヨリ同國ヲ通過差立テラレタル郵便物ニ對スル統計ヲ要求シ通過手數量ノ決済ヲ希望スル通牒ヲ發シタル件ニ關スル英國政府ノ要求ニ基キ開カレタモノデアル。尙、コノ外ニ支那政府ノ提案ニ依ル滿洲國ニ於ケル阿片問題ヲモ議題ニ加ヘラレタ。

委員會ハ先づ郵便問題ニ就キ審議ヲ開始シ、英國代表エデ

ン氏カラ提案ノ理由ヲ述べ、次イデ討議ニ移ツタガ、餘り

意見ヲ述ベルモノナク僅カフランスノマツシグリー氏ハ昨年二月二十四日ノ臨時總會決議ニ基キ滿洲國非承認ノ原則ヲ曲ゲシテ何等カ實際的解決ノ途ヲ講ズベキデアルト云

ヒ、チエツコ代表ハ勞農口シアガ各國ノ承認ヲ得ザルニ拘ラズ實際上必要ナル國際交渉ヲ遂げ居ル例ヲ述べテ滿洲國ニ對シテモ之ト同様ノ手段ヲ以テスベキデアルト說キ、ス

ヰス代表カラハ萬國郵便協定ニ基イテ交渉ヲ行ハ困難ナル立場ニ遭遇スルノハ各國自身デアルト指摘シ、大要、承認問題ニ觸レヌ程度ニ於テ實際問題ハ交渉スベシトノ意見

ニ滿洲國ノ事實的承認等ノ「コンメント」ヲ附セサル様新聞及通信社ノ指導方取計ハレ度キ旨希望シタル由）

三、通車ノ仲介機關トシテ協議中ノ中國旅行社陳光甫ニ於テ未夕引受ヲ承諾スルニ至ラス多分公表後ノ形勢ヲ見テ態度ヲ決定スルコトナルヘク既ニ旅行社カ引受ケサル時ハ新ナル出資ニ依リ別ニ引受ノ機關ヲ設置スルコトナルヘシ（唐ハ一兩日來新聞ニ傳ヘラルル「トーマスクツク」）社引受説ハ全然事實無根ナリト附言シタル由）

四、通郵ノ方ハ先般ノ聯盟ノ決議カ何如ニ實施セラルルカヲ見タル上具体案ヲ作（成）スル豫定ナリ以上唐ノ申出モアリ發表セサル様致度シ

北平、南京、滿、天津へ轉電セリ

二、満洲國ノ事實的承認等ノ「コンメント」ヲ附セサル様新聞及通信社ノ指導方取計ハレ度キ旨希望シタル由）

見タル上具体案ヲ作（成）スル豫定ナリ以上唐ノ申出モアリ發表セサル様致度シ

北平、南京、滿、天津へ轉電セリ

三、通車問題ハ三十日ノ中政會議ニ正式ニ提議スル筈ニテ同會議ニハ自分出席シ（唐ノ病氣ハ略全快セリ廿七日赴寧ノ由黃郛及殷同ハ上海ニ在リテ會議ニ結果ヲ齎シテ歸來スル自分ヲ持<sup>待カ</sup>チ其ノ上ニテ殷ハ實行ニ着手スル爲直ニ

北上シ一面中央ニ於テハ之カ實施命令ヲ出スコトニ豫定シ居レリ

（付記）

コンミニケ第一八四號（一九三四・六・二二七）

國際聯盟事務局東京支局

諮詢委員會ノ決定

聯盟日支紛争諮問委員會ハ去ル五月十四日米國ヲモ含ムニ

三、但シ聯盟總會報告並ニ諮詢委員會ノ勸告ハ孰レモ聯盟國郵務當局ヲシテ暫定的處置ヲ執ルヲ妨ゲルモノトコレヲ見做スベカラズ、右處置ハ國際條約ニ基カズ、又國際條約ノ締結若クハ國際條約ニ依リ創設サレタル機關ノ使用ヲ意味スルモノニ非ズシテ、今日ノ狀勢ニ於イテハ、滿洲通過ヲ含メル郵便物ノ送達ヲ認メル爲メニハ聯盟國ニ

トリ便宜ナリト見ラルベキモノナリ、右措置ヲ執ルニ當リ、關係當局ハ必要ナリト思惟セル時ハ郵務當局間ニ於イテ實際的ニ採用サルル技術的解決ヲ考慮シ得。

三、聯盟國ノ郵務當局ト「滿洲國」ノ郵務當局トノ間ノ關係

ヲ設定セルカル處置ヲ執ル場合ニ於イテハ、カカル關係ハ一郵務當局ト他ノ郵務當局トガ技術問題ノ適當ナル

處理ヲ確保スルノ目的ニ過ギズシテ一國ト他ノ國、又ハ

一政府ト他ノ政府トノ關係ト見做スペキニ非ズ。コレラ

技術的關係ガ錯綜ヲ生ゼシメザランガ爲ニ、聯盟國ノ郵務當局ガ「滿洲國」ノ郵務當局ニ書信ヲ送附セル場合、

カカル通信ハ一郵務當局ト他ノ郵務當局ガ技術問題ノ適當ナル處理ヲ確保スルノ目的ニ過ギズシテ、一國政府ト

他國政府トノ通信ト見做スペキニ非ズ、從ツテ右ハ萬國郵便條約ガ適用サレルコトヲ意味スルニ非ザルベシ。

以上ノ決定ハ事務總長ヲシテ諮詢委員會參加國ヲ始メ聯盟國及非聯盟國ニ通告セシメルコトトナツタ。

以上

（主トシテ胡漢民系）ト正當ノ理由ヲ述ヘテ反對セル者ト

二種アリ後者ノ内ニハ本問題自体ハ必シモ重大問題ニアラサルニ拘ラス日本側ノ態度カ意想外ニ強硬ナル裏面ニ付考慮ヲ拂フ必要アリトテ相當理非ヲ盡シタル反對主張ヲ爲シタル者モアリ之ニ對スル辯明ニハ最モ苦心セリ尙王世杰、石瑛（往電第四〇二號ノ四）等ハ最後迄反對ヲ續ケタルカ其ノ結果同人等ハ行懸上辭職ヲ申出ツル模様ニテ結果政府モ之ヲ免職スルコトトナルヘシ又孫科ハ終始一語モ發言セス沈黙シ居タリ

三、<sup>(3)</sup>之ヨリ先本問題ニ付廣東側ハ從來非公式ノ方法ニテ反對ヲ表示シ居タルカ五月二十六日突然西南政務委員會ノ名ニテ若シ中央力強ヒテ本件ヲ實行スルナラハ西南側ハ江

西ノ共匪討伐ニ對スル配備ヲ悉ク撤廢スヘシトノ趣旨ノ強硬ナル態度ヲ正式ニ表示シ來リ之ニハ蔣介石モ當惑シ居ル模様ニテ當時政府部内ニハ今一度困難ナル事情ヲ説明シテ本問題解決ノ一時延期方ヲ日本側ニ請求スヘシト

ノ議論出テタルモ汪及黃ノ反對ニテ結局前陳ノ如ク既定方針通り邁進シタル次第ナリ

四、<sup>(4)</sup>右ノ事情ニテ政府へ差當リ右西南側ニ對スル關係上當初

240 昭和9年6月2日 在中国有吉公使より  
廣田外務大臣宛（電報）

中央政治會議における通車問題審議状況および  
廣東側の反対などに關する唐有壬内話について

上海 6月2日後発

本省 6月2日後発

往電第四三四號ニ關シ  
第五十號

五月三十日ノ中政會議ニ出席ノ上來滬セル唐有壬カ六月（脱？）有野ニ内話セル處左ノ通

一、通車問題ハ當初反對派ノ中央委員等ヲ招集シ非公式會合ヲ開キ豫メ了解ヲ求ムル豫定ナリシ處（往電第四〇二號ノ二）其ノ後ノ形勢ニ依リ右ハ却テ反對者側ノ疑惑ヲ深

カラシムル惧アリト認メタル爲之ヲ取止メ三十日ノ中政會議ニ直接提議セラレタリ提案者ハ蔣介石、汪兆銘、顧孟餘及葉楚（舊姓）四名トシ提案者側ヨリ原則的事項ヲ附議シ併セテ腹案中ノ實施方法ヲモ附帶的ニ說明シタルカ相當

激論ノ上兎ニ角實施ノコトニ採決セラレタリ  
二、當日ノ反對論者中ニハ單ニ反對ノ爲反對ヲ爲シタル者

豫定ノ前顯決議ノ既時<sup>(5)</sup>發表方ヲ一時差控ヘ先ツ通車實行ノ具体案作成ト實施方發令（汪院長及蔣軍事委員長ノ共同命令トス）ノ準備トヲ進メ同時ニ西南側ニ對スル對策ヲモ研究シ其ノ上ニテ機ヲ見計ヒ一般ニ公表スル事ニ變更セリ尙殷同ハ右等準備ノ間數日間南京ニ滯在ノ豫定ナル處各方面ヨリノ非難迫害甚シキ爲極秘裡ニ多分鎮江邊ニ逃避シ居ルヘク右準備整フヲ待チ北上スルコトトナルヘク

五、通郵問題ハ支那自體ノ立場ト聯盟側ノ過般ノ決議條項トヲ考慮シ之ニ順應スル解決ヲ爲スコトニ原則ヲ決定シ居リ通車問題モ關聯シ中政會議ニテ併セテ說明シアリ目下具体案攻究中ナリ

六、設關問題ニ付テハ稅關ノ名義ヲ用フルハ面白カラサルニ付分卡ナル名稱ヲ用ヒ國內内地ノ稅局タル體裁ニテ國境ニ五箇所位設置ス可シトノ案有力ナルカ尙引續キ研究中ナリ

尚唐ハ前記四、二關シ一般ヘノ公表內容ハ何レ當方ヘモ豫メ通知スヘキニ付其ノ際日本側ニ於テモ成ル可ク批評的記事ヲ掲ケシメサル様取締方努力願度シト繰返シ述ヘタル趣ニ

付右然ル可ク御措置相成度シ

(以上發表セサル様致度シ)

昭和9年6月6日 在中国有吉公使より

広田外務大臣宛(電報)

停戦協定善後処理に関する申合せ事項近く実行の見通しに伴い協定区域内よりの閏東軍撤兵実行方など黄郛要請について

上海 6月6日後発  
本省 6月6日後着

\*  
第46〇號

六日本使黄郛ト會見セルカ談話要領左ノ通

一、先ツ本使ノ歸任ニ關シ挨拶ヲ交換シタル後黃ハ華北問題ヲ中心トスル支那側最近ノ反動空氣、西南派ノ懸案解決反対態度及數日前黃ノ宅ニ爆彈投入騒キ(不發ノ爲損傷等ナシ)アリタルコト等ヲ語リ蔣介石、汪兆銘及同人等二對スル日本側ノ同情及援助ヲ求ムル意向ヲ述ヘタルニ付本使ハ日本朝野ノ支那ニ對スル關心特ニ兩國提携ノ必要ヲ痛感シ居ル一般ノ眞摯ナル態度並ニ蔣汪等ニ對スル我

三、次イテ黃ハ當面ノ問題ニ付現状ヲ報告スヘシトテ通車問題ハ既ニ二日附ニテ政府ヨリ之カ實施方電訓ニ接シ尙不日詳細ノ書面訓令送付越ノ筈ニ付殷同ヲシテ昨五日北方ヨリ歸來セル陳光甫トノ間ニ通運公司組織ニ關スル相談ヲナサシメ更ニ殷ヲシテ九日出帆ノ大連丸ニテ大連ニ赴キ同地ニテ宇佐美理事トノ間ニ細目ノ打合ヲ爲サシムルコトニ豫定シ居レリト述ヘ

三、更ニ通關問題モ既ニ孔財政部長ト相談シ通車ト同時ニ通關辦法ヲ實施スルコト又山海關以外ノ關内ノ通關辦法モ追テ實行ノコトニ打合セアリ(往電第四五一號六御參照)

唯通郵問題ハ聯盟ノ決議事項モアリ政府ハ之ヲ實行スルモ稍責任輕キ譯ナルモ之カ法律的解決ハ單ニ滿洲ト華北トノ間ノミナラス支那全体トノ關係ヲモ考慮調整スル必要アリ通車實施後一般ノ空氣ヲ見テ實施ノ豫定ニテ下政府ニテ折角研究中ナルカ所謂關東軍トノ申合セ事項トシテ再通郵ハ華北對滿洲ノ關係ナル處此ノ點ハ既ニ變態的便法。ニ依リ(往電第三八九號ノ二及往電第四〇三號ノ四)實際的ニハ解決ト略同様ノ狀態ニアリト述ヘタルカ

本使ヨリ支那側ノ不足郵稅徵收ニ對シ更ニ何等カノ調整方法ヲ加フル必要アルヘキ旨ヲ注意シタルニ黃ハ右不足稅收入ハ約十萬元内外ニテ國家ノ收入トシテハ問題ニナラサルモ法律的解決ニハ尙考究ノ要アリト答ヘ居タリ

四、次テ黃ハ右ノ次第二テ通車通關ハ近ク解決シ通郵ノ方ハ華北ニ關スル限り便法ニ依リ既ニ一段落ヲ告ケ居リ支那全体トシテノ根本的解決モ追テ促進ノコトニ決定シ居リ即チ前顯「申合事項」ノ主要問題ハ一先片附キ關東軍側ニ對シテモ義理カ濟ム次第ナルニ付此ノ上ハ本來ノ停戰協定ニ立返リ(黃ハ申合事項ハ停戰協定ト別個ノモノナリト附言ス)日本側ノ義務タル撤兵ヲ履行シテ貰ヒ度考ナリトテ

(一)中央ニ於テ既ニ日本ニ對スル敵意ヲ放棄シタル今日華北ニ對日敵對行動アル可キ筈ナク現ニ華北ノ舊東北軍

約十六萬中十一萬ハ南方ニ移駐ヲ了セルコト

(二)非戰區域内ニ日本軍ノ駐屯依然十一ヶ所アリ他ニ滿洲國ノ軍隊及検査所モアリ員數ノ多少ニ拘ラズ之カ全部撤退ヲ見ル迄ハ依然人心ノ不安去ラス農村ノ經濟ハ回復セス平津ノ商業モ復活セサル狀態ニアルコト(興縣)

二在ル日本軍ノ保安隊等ニ對スル態度支那人其ノ他力日本軍ノ威ヲ借りテ策動暴行等ヲ爲ス者堪堪ヘサルコト等ニ三例ヲ示ス)

(三)沽源多倫方面ニハ日滿側機關ヲ設置シ任意ニ交通路ノ建設ヲ行ヒ居リ一層人心ノ不安ヲ深カラシメ居ルコト(黃ハ右ハ日本對蘇聯軍事工作ノ一部ナルヘキモ蘇聯ハ共同ノ敵ナレハ寧ロ相談ノ上支那側ノ事業トセハ好都合ナリト附言ス)

(四)華北ニ於ケル日支提携ノ經濟事業ヲ計畫スル爲ニモ先ツ右ノ如キ人心不安ノ主因タル日本軍ノ殘留ヲ早目ニ切上ケラレ度キコト(其ノ後ノ支那側ニ對スル監視ハ關東軍ヨリ天津駐屯軍ニ委任セラレテモ差支ナカルヘシト述フ)

(五)尙出來得ヘクハ殷同ヲシテ赴連ノ序岡村少將ヲ訪問セシメ右ノ如キ事項ニ付腹藏ナク協議セシメ度キ希望アル旨ヲ述ヘ更ニ

五、〔第五〕黃北問題ノ現狀ニ對スル自分ノ立場及心境等ヲ詳細説明シタル上本人來滬以來當地ノ新聞界各機關等ニ對シ華北問題解決ニ關スル諒解ヲ求メ各方面共一通り納得シ吳レ

タルカ唯學校學生等ノ團体ノミハ手カ付ケラレス頻リニ  
爆彈ト「ピストル」等ノ脅迫ヲ受ケ居レルカ一方政府當

局者ハ自分ノ新聞記者ニ對スル發言ヲ封シ乍ラ通車通郵  
通關等ノ主管者タル鐵道交通財政部長等ハ記者ニ對シ常

ニ此ノ種問題ハ地方的解決事項ナリトテ表面ノ責任ヲ自

分(黃)ニ轉嫁スル傾向アリ

之カ爲自分ニノミ一般ノ攻撃カ集中スル次第ナリトテ不

滿ヲ洩シ右ノ如キ立場ニアル自分ヲ活動サセル爲ニモ非

戰區域内ノ日本側撤兵實行ニ依リ通車等ノ問題解決カ有

意義ナルコトヲ證明シ得ル様日本側ノ好意的態度ヲ期待

シテ止マスト述ヘタルカ本使ハ右ニ對シ餘り深入リセサ

ル程度ニテ然ルヘク應答シ置ケリ

六、終リニ本使ヨリ黃ノ歸任時期ニ付質シタルニ黃ハ通車問

題モ幾度カ後返フントシタルモ自分カ當地ニ頑張リ居リ

タル爲今日ノ結果ヲ見タル次第モアリ今暫ク滯在シ通郵

問題ノ成行ヲモ見又蔣介石カ本月中旬頃南京ニ來ル豫定

アルニ付夫レモ待チ度シトテ期日未定ノ由答ヘ居タリ

尙黃ハ人目ヲ避ケ當日早朝來訪シタル次第ナルカ本使トノ

今同ノ會見ヲ特ニ秘密ニシ度由申出テノ次第モアリ會見ノ

事實ヲモ發表セサルニ付御含置アリタシ

242 昭和9年6月15日 在満州國菱刈大使より

廣田外務大臣宛(電報)

関東軍に対し停戰協定区域より撤兵し同区域  
に関する問題は今後日中間外交交渉に移管し

たき旨殷同北寧鉄路局長要望について

新 京 6月15日後発 本 省 6月15日後着

往電第七九四號ニ關シ

一、十三日殷同柴山中佐ト共ニ來新、岡村副長及喜多大佐ニ  
對シ

(イ)、停戰協定善後處理ニ關スル北平申合事項ニ付テハ今  
次黃郛ノ南下ニ依リ中央トノ了解成リ通車ハ近ク實施  
スヘク通郵問題モ中央ノ了解ヲ得タルヲ以テ引續キ實  
施スヘク又設關問題ハ山海關ノ外義院口、界嶺口、冷  
口、喜峰口及古北口ヲ通關地ニ定メ交易實施ノ運ニ至  
ルヘシ(註、航空聯絡問題ニハ何等觸レ居ラス)

(ロ)、戰區内ニハ天津軍モ在ルコト故ニ關東軍所屬部隊ハ  
速ニ長城以北ニ引揚ケラレタシ實ノ所北平申合事項ノ  
内容ハ公表セラレ居ラサル爲關東軍ノ關内駐兵ハ協定  
違反ナリ等種々難癖ヲ付ケラレ黃郛ハ其ノ立場上困難  
ナル地位ニアルニ付黃郛トシテハ此ノ苦境ヨリ脱シ且  
戰區内ヲ正常化スル爲是等ノ問題ヲ日支間ノ正式外交  
交渉ニ移シ度希望ナリト述ヘタリ

二、右ニ對シ岡村副長ハ

(イ)、上海方面ニ於テハ日支間無線問題容易ニ解決シタル  
ニ對シ北支ノ懸案解決遲タタルハ支那側ノ關東軍ニ對

スル面當トモ思ハレルニ付速ニ北平申合事項ヲ實施シ  
日支間ノ空氣ヲ緩和スルコト必要ナリ又關東軍ノ關内

駐兵ハ右申合ニ基キ長城南側部落ノ一部ヲ利用シアル  
程度ニ過キシテ時々發生スル小紛議ノ爲戰時氣分濃  
厚ナリト稱スルモ其ノ原因ハ寧ロ支那側ニアリテ保安

隊ノ改善ニ依リ排日、侮日ノ空氣ヲ除去スルト共ニ河  
北省政府當局就中于學忠周圍ノ刷新等ニ依リ親日的空  
氣ヲ醸成スルコト必要ナリ

(ロ)、戰區内諸問題ヲ正式外交交渉ニ移スコトニ付テハ大  
事

243 昭和9年6月15日 在滿州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

停戰協定区域に関する問題を日中間外交交渉

に移管したいとする殷同要望には輕々に応諾  
できないとの関東軍意向について

付記一 六月二十九日付、陸軍省軍務局軍事課作成

「上海及北支那停戰協定打切りニ關スル件」

二 七月五日付、東亜局第一課作成

「上海及北支那停戰協定打切りニ關スル件」

三 七月七日付、陸軍省軍務局軍事課作成

「停戰協定打切りニ關スル件」

第八〇五號(極祕)

本省 6月15日後着

關東軍ヨリ軍中央部ニ對シ十四日左記趣旨ノ意見ヲ電報セ

(付記一)

昭和六、六、元

軍事課

ル趣ナリ

正式外交交渉ニ關スル殷同申出ノ眞意ハ北平申合セ事項實施ニ關シ黃郛ハ日本側ト國內反對派トノ板挾ミノ苦境ニアリ假令通車通郵等ノ問題ヲ解決スルモ將來右申合セニ規定シアル長城警備權、關東軍ノ長城南側駐兵權、航空聯絡ノ問題等ノ爲彼等ハ愈難局ニ立ツヘキヲ以テ此ノ際名ヲ戰區ノ正常化ニ藉リテ以テ解決ヲ遷延シ又ハ之ヲ表面化シテ責任ヲ轉嫁スルト共ニアハヨクハ政治協定ニ依リ停戰協定ヲ解消シ其ノ拘束ヨリ脱セント企圖スルモノニアルヤニ思ハル處我方トシテハ本件外交交渉ハ單ナル戰區問題ニ限定スルコト無ク廣汎ナル滿洲問題解決ニ關スル日支直接交渉ニ誘致スル見込充分ナラサル限り輕々ニ先方ノ申出ニ應諾スヘキニアラスト考察シ居レリ

北平、天津、支へ轉電セリ

上海及北支那停戰協定打切りニ關スル件

一、上海停戰協定ハ支那ノ抗日取締ニ關シ日支兩國政府ノ間ニ取極メ成立スル場合ニ於テ打切ラルヘキモノナリ  
二、北支那停戰協定ハ支那側カ一切ノ反滿抗日行爲ヲナササルコトニ關シ日支兩國政府ノ間ニ取極メ成立シタル場合ニ於テ打切ラル可キモノナリ

右兩者ハ其性質上分離シテ處理セラル可キモノナルモ實際上ノ問題トシテ支那側カ右ノ如キ政府間ノ取極メニ應諾スル時機ハ滿洲事變ニ起因スル日支國交力調整清算セラル場合ナルヘク從ツテ停戰協定ハ尙相當長期ニ亘リ之カ存續ヲ必要トシ此ノ間局部的狀態ノ好轉等ヲ以テ妄ニ停戰協定ヲ改廢スヘキモノニ非ス

說明

一、上海停戰協定

上海事變ハ支那ノ排日暴舉ト正規軍ノ挑戰ニ對シ帝國臣民ノ生命財產及帝國權益ノ擁護ト租界防備ニ關スル國際的義務履行ヲ目的トセル軍事行動ニシテ主義上滿洲問題ト率連セシムルコトヲ避ケタリ從ツテ事件ノ性質ハ表面満洲問題ト關係ナシ依テ上海附近ニ於ケル支那側ノ排日行爲カ根絶セラルニ於テハ停戰協定存續ノ理由ハ一應消滅スル理ナリ而シテ上海協定第二條「中國軍隊ハ本協定ニヨリ取扱ハルル地域ニ於ケル正常狀態ノ恢復後ニ於テ追而取極メアル迄其現駐地ニ止マルヘシ云々」トアリ追而取極メヲナスヘキ件ニ關シテハ停戰協定ノ商議中關係第三國代表ヲ含メテ行フ圓卓會議ノ成立ヲ期待シアリシモ支那側ノ反對ト第三國ノ氣乘薄ニヨリ流產ニ終リタル經緯アリ從ツテ右取極メハ今後日支兩國ノ直接交渉ニヨリナサルヘキモノナリ

然ラハ右直接交渉カ單ニ上海附近ノ局地の平常狀態ノ恢復ヲ理由トシテ開始セラル可キモノナリヤ抑々上海事變

ノ原因タル支那側ノ暴舉カ滿洲事變ニ誘因スルモノナルコト而モ當時支那各地方ニ排日運動反覆セラレ上海ハ偶々其一場面ニ過キサリシ事實ニ鑑ミ單ニ上海附近ノ局

地的問題ニ非スシテ全面的ニ支那ニ於ケル排日抗日カ抑壓セラルルコトニ關シ將來ノ保證ヲ得ラル可キ場合ニ非サレハ帝國トシテハ俄ニ該停戰協定打切りニ應シ難キ次第ナリ

三、北支停戰協定

滿洲方面ニ於ケル帝國軍ノ行動ハ滿洲國承認ノ前後ニ於テ全ク其性質ヲ異ニス即承認前ニ於ケル帝國軍ノ行動ハ在滿帝國臣民ノ生命財產及帝國權益ノ保護ヲ有效ニ保證スルタメノ行動ニシテ專ラ帝國ノ自衛權ノ範圍内ニ於テ行ナハレタルモノナルカ承認後ニ於テハ等シク自衛權ノ範圍ヲ脫逸セサルモ滿洲國ノ國防及治安恢復ニ協力セルモノニシテ其熱河ニ於ケル軍事行動モ同地方ノ反滿分子ニ對スル滿洲國軍ノ討伐ニ協力スル立前ヲ以テ進ミタリ而シテ關外ニ進出セル張學良軍其他ノ支那正規軍ニ對シテハ滿洲國ノ主權擁護ノ見地ヨリ其侵略行爲ヲ排除スルタメ之ヲ擊撃スヘキ趣旨ヲ宣明シ且支那軍侵略的行爲カ繼續セラル限リ關外進出ノ餘儀ナキ場合アルヘキヲ聲明シアリ

右ニヨレハ關東軍ノ關外進出ハ支那軍ノ滿洲國領域ニ對

一、支那新聞等ニ報道セラレタル北支停戦協定廢棄説ハ黃郛ノ有吉公使ニ對スル談話、殷同ノ關東軍ニ對スル申出等ト關聯スルモノト想像セラルル處黃郛ノ談話ナルモノハ通車通郵等北平申合事項ノ實現ヲ機會ニ日本軍ノ關外撤退ヲ希望セルモノナルモ右申合事項第四項中今日實現ノ運トナレルハ單ニ通車問題一個ニ過キサルノミナラス日本軍ノ撤退ハ寧ロ支那側ノ都合ニヨリ遲延セラレ居ル實情ニシテ又殷同ノ「北支停戦協定區域内ノ諸問題ヲ日支間ノ正式外交交渉ニ移シ度」トノ申出モ果シテ國民政府乃至ハ黃郛等ノ意向ヲ受ケタルモノナリヤ又如何ナル問

歐洲國ニ對スル挑戰攬亂行爲ヲナサルコトニ關シ曰支那國間ニ明確ナル取極メ成立スル時機ニ於テナサルヘキモノナルカ實際上支那ノ滿洲國承認ハ近キ將來ニ豫期シ難キ處ニシテ此ノ間停戰協定ヲ存續セシムルカ停戰協定ニ代ル可キ政治協定ヲ日支兩國政府間ニ締結スルカハ更ニ研究ヲ要スル問題ナリ即政治協定ニヨリ現停戰協定ト略同様ノ取極メヲナシ得ルニ於テハ我方トシテ最モ好都合ナルモ支那側カ果シテ此ノ種政治協定ニ應スルヤ多大ノ疑問アリ從ツテ本件ハ將來ノ情勢ノ推移ヲ見テ慎重ナル態度ヲ以テ臨ムヘキモノニシテ現ニ進行中ナル北支諸懸

卷二

上海及北支那停戰協定打切りニ關スル件

（昭和十七年五月）  
一、本件ニ關スル六月廿九日附貴見結論「停戰協定ハ尙相當長期ニ亘リ之カ存續ヲ必要トシ此ノ間局部的狀態ノ好轉等ヲ以テ妄ニ停戰協定ヲ改廢スヘキモノニ非ス」ハ當方トシテモ全然同意見ニシテ北支停戰協定ハ理論上ハ結局滿洲國承認ヲ前提トスル日滿支政府間ノ政治的協定、別ニ實現スルカ乃至ハ少クトモ右實現ニ關シ充分ノ見透シ着カサル限廢棄セサル方得策ナルヘシ  
二、但「テクニツク」ノ問題トシテハ貴案中上海停戰協定ニ關シテハ本年三月二十七日ノ日支交換公文ニヨリ支那側

トシテノ問題トシテハ北支停戦協定廢棄説ニ對シ  
テモ前記上海停戦協定同様北支停戦協定第一條第二項ニ  
明記シアル「一切ノ挑戦攬亂行爲ヲ行フコトナシ」トノ  
一項ニヨリ支那側ニ對シテハ「支那側カ一切ノ挑戦攬亂  
行爲ヲ行ハサルニ至レルヲ我方ニ於テ確認スルニ至ル迄  
北支停戦協定ハ打切ラス」トノ趣旨ニテ先方申出(若シア  
ラハ)ヲ撥ネツケレハ可ナリト考ヘラル。

スル侵略攬亂行爲ニヨツテ生シタル滿洲國自衛權ノ發動ニ對シ關東軍カ之ニ協力シ其企圖ヲ斷念セシムルタメノ

案ノ解決ヲ以テ停戦協定ヲ解消セントスル支那側ノ企圖  
ニ乘セラレサルコト絶對ニ必要ナリ

五。

二 本文書の出典は付記一編注と同じ。

(付記三)

停戦協定打切りニ關スル件

昭和六、セ、セ  
軍事課

一、滿洲事變ニ由リ歪曲セラレアル日支國交カ漸次正常化スルニ伴ヒ支那側ヨリ上海及北支停戦協定ノ改廢ヲ希望シ來ルヤモ知レサル處右協定ノ廢棄ハ事實上日支抗爭ノ原因カ甚除セラレ兩國國交カ完全ニ調整清算セラル時機ニ至ラサレハ之ニ應諾スヘキモノニ非ス從ツテ兩者停戦協定ハ支那側カ其對日滿態度ヲ根本的ニ是正セサル限り尙長期ニ亘リ之カ存續ヲ必要トシ此ノ間局部的事態ノ好轉等ヲ以テ妄ニ停戦協定ヲ改廢スヘキモノニ非ス

二、尤モ上海停戦協定ト北支停戦協定トハ稍其性質ヲ異ニスルモノアリ理論上分離シテ處理セラル可キモノナルモ實際上ノ問題トシテ一方ノ改廢ハ勢ヒ他ノ一方ニ波及スル

四、右ノ如キ停戦協定廢棄條件ハ近キ將來ニ於テ支那側ノ受諾シ難キ處ナルヘク又右條件ヲ具備セサル政治協定ヲ以テ停戦協定二代フルコトハ我方ニ取り有利ナラサルヲ以テ本問題ノ取扱ハ我方ニ於テ停戦協定改廢ニ應スルヤノ印象ヲ支那側ニ與ヘサルコト肝要ニシテ先方ノ改廢希望乃至探リニ對シテハ前項廢棄條件ヲ夫レトナク仄カシテ彼等ニ觀念セシメ支那政府ノ申出(萬無カル可キモ)ニ對シテハ上海停戦協定ニアリテハ同協定中ノ「追而取極

メアル迄」ヲ利用シ北支停戦協定ニアリテハ滿洲國承認

問題ヲ持出シ之ニ對抗スルヲ可トス

目下交渉中ノ停戦協定善後處理交渉カ全部解決セル曉ニ

於テモ停戦協定ノ本質ニ觸ルルカ如キ讓歩ヲ取極ムルコトハ北支那ノ全般的情勢ノ改善ニ不利ナルヲ以テ避クルヲ要ス

説明(編注二)

右実施発表文要旨

北平 6月18日後発  
本省 6月18日後着

第二六一號(極秘)

十一日大連ニ於テ殷同及鐵路總局側ト通車實行方打合ノ上殷同伴新京へ出張セル柴山武官歸平、本官ヘノ内話ニ依レハ右打合會ニ於テハ既ニ中央政府ヨリ通車實行發令ノ次第モアリ左シタル問題ナカリシモ往電第二二一號通車辦法中左ノ通り修正ノ上決定セル趣ナリ

一、通車ノ局ニ當ル組合ノ名稱ハ東亞通運公司トアル處支那側ニテハ「東亞」ナル文句ハ所謂日本ノ東亞「モンロー」主義等論セラルル今日面白カラサル故之ヲ「東方」ト改メ又「通運」ハ貨物ノ輸送ナルカ如ク誤解セラルルヲ避クル爲「旅行社」ト改メ度旨申出テ鐵路總局側ニテハ通車サヘ出來得レハ名稱ニ拘泥スル必要ナシトテ之ニ同意シ結局「東方旅行社」ト修正セリ

通車問題に關し大連での実務者間協議において中立機関の名称および実施發表日時など決定について

244 昭和9年6月18日

在中國若杉公使館一等書記官より  
廣田外務大臣宛(電報)

虞アリ從ツテ我方トシテハ協定打切りノ時機到來ヲ待ツテ一併解決スル方針ヲ以テ進ムコト然ルヘシ

三、而シテ協定打切りノ條件トシテハ

イ、上海停戦協定ハ支那ノ全般的抗日取締及上海租界ノ安全ニ關シ日支兩國政府間ニ取極メ成立シ將來ノ保障ヲ得ルコトヲ要シ

ロ、北支停戦協定ハ支那側カ一切ノ反滿抗日行爲ヲナサ

サルコトニ關シ日支兩國政府間ニ取極メ成立スル場合換言スレハ滿洲國ノ事實上ノ承認ヲ前提トスル政

治協定成立スルカ乃至ハ少クモ右實現ニ關シ充分ノ成算アルコトヲ要ス

モ屬セサル組合ノ積リナルモ)右二年交代規定ヲ削除シ  
差當リ總經理ヲ支那側ヨリ副經理ヲ鐵路總局ヨリ出スコ  
トニ改メ同總經理ニハ上海ノ中國旅行社次級支配人格ノ  
張水洪、副經理ニハ鐵路總局平山定也ヲ任命スルコトニ  
決定セリ

## 三、通車實行期日ヲ七月(脱?)トス

四、本件發表ハ當初二十日午前九時ト打合セタル處黃郛ヨリ  
成ルヘク實行日ニ接近セル二十八日ト改メラレ度旨來電  
アリタルニ依リ二十八日午前九時當地殷同及柴山武官竝  
ニ同日午前十一時奉天鐵路總局(滿洲國法規上ノ必要ニ  
依リ豫メ總局ヨリ公表ノ要アル由)ニ於テ發表シ其ノ發  
表文ノ內容ハ別電第二六二號ノ通ナル趣ナリ

本電別電ト共ニ支、南京、滿、天津ヘ轉電セリ

## (別電)

北平 6月19日後発

本省 6月19日後着

## 第二六二號(極秘)

發表文句内容

一、豫テ懸案中ノ通車問題ハ日支兩者間ニ於テ慎重研究ノ結

果東方旅行社ニ於テ毎日相互一個列車ヲ奉天及北平ヨリ  
運轉スルコトニ決定シ七月一日ヨリ實施ノ豫定

二、通車ニ關スル一切ノ事務ハ新ニ設置セラルル東方旅行社  
ニ於テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

三、旅行社ニ必要ナル運轉時刻、列車編成、旅客手荷物ノ取  
扱、乗車券發賣等ニ關スル詳細ハ鐵路當局長發表ス

右發表迄ハ極秘扱ヲ請フ

## 三、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

一、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

二、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

三、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

四、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

五、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

六、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

七、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

八、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

九、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

十、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

十一、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

十二、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

十三、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

十四、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

十五、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

十六、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

十七、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

十八、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

十九、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

二十、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

二十一、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

二十二、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

二十三、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

二十四、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

二十五、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

二十六、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

二十七、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

二十八、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

二十九、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

三十、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

三十一、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

三十二、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

三十三、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

三十四、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

三十五、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

三十六、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

三十七、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

三十八、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

三十九、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

四十、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

四十一、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

四十二、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

四十三、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

四十四、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

四十五、豫テ實施シ該旅行社ハ其ノ位置ヲ山海關ニ置ク

辨法サヘ間ニ合ヘハ七月一日ヨリ實行ノ筈ニテ通郵モ滿洲國ノ切手ヲ用ヒサル辨法サヘ立テハ之亦實行セラルヘク(交通部ニテ目下者究中)又設關ハ支那側ハ天津海關出張所ヲ設ケ早急解決ノ心算ナルカ何シロ戰區各地ニ意外ノ障害多ク黃郛モ北上ヲ躊躇シ居ル實情ナリ例ヘハ本日來着ノ電報ニ依レハ(トテ河北省政府主席來電ヲ示シツツ)昌黎縣ニ於テ日本人使用ノ支那人カ禁制品ヲ運搬シ沒收セラレタル處右日本人ハ三十數名ノ日本軍隊ノ力ヲ借り之ヲ奪還セル如キ又戰區内ニ日本側カ自動車路ヲ縱横ニ建設シ居ルカ如キ事實有ルノミナラス

(<sup>(2)</sup>熱河ノ北票炭坑ニハ約四割方ノ支那政府筋ノ利益アル等種々複雜ナル事情介在シ居ル次第ナレハ通車通郵等差當リノ諸懸案解決ノ機會ニ於テ將來河北ニ於テ日支ノ紛爭原因ヲ一掃スルノ方策ヲ案出シ度熟慮中ナルカ何等御傳言モアラハ承リ度シトテ冒頭電報殷同ノ申出ニ夫レトナク當リ見居ルヤノ様子ナリシヲ以テ本官ヨリ日支關係ノ大局ヨリ河北諸懸案ヲ出來得ル限り速ニ解決スルコトハ當方トシテ望ム處ナルモ之等諸問題ノ解決ハニ懸リテ地方的處理如何ニアル次第ナレハ私見トシテハ黃郛ニ於テ更ニ一層ノ友情

三、豫テ實行期日ヲ七月(脱?)トス

四、本件發表ハ當初二十日午前九時ト打合セタル處黃郛ヨリ成ルヘク實行日ニ接近セル二十八日ト改メラレ度旨來電アリタルニ依リ二十八日午前九時當地殷同及柴山武官竝ニ同日午前十一時奉天鐵路總局(滿洲國法規上ノ必要ニ依リ豫メ總局ヨリ公表ノ要アル由)ニ於テ發表シ其ノ發表文ノ內容ハ別電第二六二號ノ通ナル趣ナリ

本電別電ト共ニ支、南京、滿、天津ヘ轉電セリ

趣ナリ

右ハ最近北平ヲ追ハレ北寧沿線ヲ浮浪シ居ル鐵血除奸團ノ所爲ニシテ其ノ背後ニハ反黃郛派存在シ居ルニ非スヤトノ說アリ

右爆彈事實ハ二日ノ漢字紙ニ大々的ニ報道セラレアルモ二日ノ奉天行第二次列車ハ第一次列車ヨリ乗客寧口增加シ居レリ

支、南京、天津、瀋、奉天へ轉電セリ

在天津栗原總領事より  
廣田外務大臣宛

247 昭和九年7月9日

山海關における中國側税関の徵稅開始について  
(7月21日接受)

機密第六六〇號

昭和九年七月九日

在天津

總領事 栗原 正(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

山海關中國海關ノ課稅開始經緯報告ノ件

山海關ニ於ケル中國海關課稅開始經緯並ニ在留邦人ニ及ホ

本年二月十日山海關支那側ニ接收セラルルヤ支那側ハ關稅ノ長城線進出ノ諒解ヲ求メタル處山海關駐在特務機關ニ於テハ關稅線ノ長城線進出ハ原則トシテ異議ナキモ其ノ際滿洲國海關及郵便局奉山線山海關驛等關係者ト協調シ實施スルカ如ク要求セル爲メ支那側ハ之ト協調スルトキハ滿洲國各機關ヲ承認スルノ結果トナルヲ以テ之カ實施ヲ躊躇シ居タルモ通車開始切迫シタル爲メ遂ニ六月十九日山海關特務機關ニ於テ秦皇島海關長アスカ一滿洲國

海關長郵便局長等會合シ儀我大佐立會ノ下ニ協議會ヲ開催シタリ而シテ滿洲國各機關ト協調ヲ要スヘキモノハ七月一日以降ヨリ實施スルコトニ決定セルモ山海關ニ於ケル通關ニ對シテハ何等協議スル所ナク六月二十日ヨリ直チニ一般ニ對スル關稅徵收ヲ實施スルニ至レリ又同時ニ

山海關天下第一關ニ海關分所ヲ設置シ業務ヲ開始セリ  
三、關稅徵收ノ邦人ニ與ヘタル影響  
關稅線ヲ石河線トシテ事件以來實施シ來リタル結果山海關ハ奉天方面ヨリノ商品ハ無稅ニテ輸入セラレ爲メニ日本品ハ奉天市場全様ニ取引セラレ來リタルニ今回突然中國側ニ於テ高率課稅ノ徵收ヲ開始スルニ至リタル爲メ多大ノ打擊ヲ受クルニ至リ邦人間ニ於テハ寄々之カ對策ニ付協議シツツアリ

本信寫送附先 在中公使 北平 在滿大使 南京 關

東廳 錦州

~~~~~

248 昭和9年7月16日 在中國芳林公使館一等書記官より
廣田外務大臣宛(電報)

許卓然に対し停戰協定区域の正常化要望は時

シタル影響左ノ通り報告ス御查閱相成度シ

左記

一、課稅開始ノ經緯

山海關中國海關ハ山海關事件直後軍ノ占據地ニ於テ支那主權ノ一部タル關稅徵收ヲ認ムルハ適當ナラストノ見地ヨリ駐屯軍側ニ於テハ支那側海關ヲシテ自發的ニ中止スル如ク指導シ關稅線ヲ石河ノ線トシテ實施シ一方滿洲國山海關海關又石河ヲ以テ關稅線トシ來リ現在ニ及ヘリ而シテ山海關在留邦人ニ對シテハ守備軍ノ監視ニヨリ關稅徵收ヲ控ヘ居リタルモ支那側住民ニ對シテハ執拗ニ陰ニ關稅徵收ヲ實施シ來レリ

本年二月十日山海關支那側ニ接收セラルルヤ支那側ハ關稅ノ長城線進出ノ諒解ヲ求メタル處山海關駐在特務機關ニ於テハ關稅線ノ長城線進出ハ原則トシテ異議ナキモ其ノ際滿洲國海關及郵便局奉山線山海關驛等關係者ト協調シ實施スルカ如ク要求セル爲メ支那側ハ之ト協調スルトキハ滿洲國各機關ヲ承認スルノ結果トナルヲ以テ之カ實施ヲ躊躇シ居タルモ通車開始切迫シタル爲メ遂ニ六月十九日山海關特務機關ニ於テ秦皇島海關長アスカ一滿洲國

期尚早にして実現困難の旨黃郛らに忠告方要
請について

北平 7月16日後発
本省 7月16日後着

第二九一號(極秘級)

十五日許卓然來訪ノ際遇日孔財政部長山西訪問ノ使命ニ尋ネタル處許力極秘トシテ語ル處ニ依レハ孔北上ノ使命ハ財政狀態視察ト稱スルモ實ハ蔣介石ト閻錫山トハ不和ノ間柄ニアルハ周知ノ事實ナル處閻力重病又ハ死亡等ノ謠言行ハレ爲ニ山西銀行ノ預金取(付)騷迄生シタル程ナルモ閻力一切他人ト面會セサル故眞相不明ナルヲ以テ蔣介石ノ政治工作上之ヲ突止ムル必要モアリ旁山西人ニシテ蔣ト閻トノ仲介者タル孔祥熙ニ對シテハ面會ヲ拒絶スルヲ得サルヲ以テ蔣ハ孔ヲシテ閻ノ近情ヲ突止メシムルト同時ニ本年十一月開催ノ筈ナル五中全體會議ニ對スル閻ノ了解ヲ求メ其ノ態度ヲ緩和セシムルニアリタル趣ナリ而シテ閻ハ聊カ持病ハアルモ決シテ重病ニハアラス健在ナル由又卓然ノ内詰ニ依レハ黃郛カ客月二十六、七日杭州ニ於テ蔣介石ト會見ノ際相當議論モアリ黃ハ辭意ヲ表シタルモ蔣

ハ之ヲ許可セス兎モ角本年十一月五中全體會議ニ於テ根本的方針決定迄ハ是非共北平ニ歸任ヲ勸メラレ差當リ避暑ノ爲更ニ一個月ノ猶豫ヲ與ヘラレタルヲ以テ當分莫干山ニテ保養ノ上多分七月末頃ニハ一應北上スヘク

而シテ右會議ノ結果若シ黃ノ方針ヲ承諾スレハ其ノ儘留任スヘキモ萬一莫^黄ノ施政ニ反對スル場合ハ愈辭任スルニ至ル

ヘシトノコトナリ

又日下南下シ黃ト打合中ノ殷同ヨリノ來電ニ依レハ殷ハ先

般汽車爆破事件ニ依リ辭表提出中ナリシモ黃ノ慰撫ニ依リ辭意ヲ翻シ二十日頃北上停戰區域問題ニ付關東軍岡村參謀

副長ト會見ノ希望ナル趣ニ付本官ヨリ許ニ對シ右ハ尤モノ

希望ナルモ忌憚無ク言ヘハ關東軍トノ申合事項未タ完了セ

サル以前ニ今尙戰時勤務中ノ立場ニアル關東軍ニ對シ停戰

區域問題ニ付其ノ意嚮ヲ確メントスルモ無理ニシテ又支那

側トシテモ賢明ノ策ニアラス要ハ先ツ速ニ通郵設關等ノ懸

案ヲ一掃シタル上ニテ提議スル方双方ノ立場上都合宜シカルヘキ旨本官ノ友誼的助言トシテ黃郛又ハ殷同ニ傳ヘ吳程度シト告げ置キタリ尙許ノ談ニ依レハ通郵ハ目下交通部ニ於テ其ノ實行方法ヲ研究中ニテ設關ハ既ニ過日來財政部ヨ

リ副稅務司チヨウユウネン及東海關監督サツコウゲンサイヲ當地方ニ派遣シ實地調査中ナル趣ナリ

支、南京、天津、滿へ轉電セリ

249 昭和9年7月19日 在中國有吉公使より
廣田外務大臣宛(電報)

關東軍が航空連絡および政治協定締結などを

中国側に提案したとの情報に關し在北平公使館に真偽確認方指示について

第五八四號(極秘級)? 上海 7月19日後發 本省 7月19日後着

本使發北平宛電報

第三五號

南京發大臣宛電報第八〇七號ニ關シ

貴官ハ同電一ノ如キ通郵航空(航空聯絡ニ付テハ華北ニ限ルヤ其ノ他ノ支那各地ニ及フヤ不明ナルニ付此ノ點モ明カニシ度シ)及政治協定ニ關スル關東軍側ノ提案ノ有無又ハ提案ノ豫定アリヤ等ノ點ニ付貴官限リノ意嚮トシテ柴山等

二御聞合ノ上結果御回電アリ度シ
大臣、南京へ轉電セリ

250 昭和9年7月20日 在中國若杉公使館一等書記官より
廣田外務大臣宛(電報)

通郵および航空連絡問題などに關する關東軍

意向探査について

北平 7月20日後發
本省 7月20日後着

第二九五號(極秘級)?

本官發支宛電報

第二四一號

貴電第三五號ニ關シ

柴山ハ本月十五日當地發滿洲へ赴キ目下新京滯在中ニテ二
十五、六日頃迄歸平セサル豫定ニ付貴電ノ趣直ニ新京柴山
へ確メ追テ確答スヘキモ一應當地武官室留守役トモ打合ノ
上本官限り承知スル處ニ依リ左ノ通り回答申進ス

一、通郵ニ關シ關東軍ヨリ郵便物交換所ヲ上海及漢口ニ設置
スヘキ旨提案シタルコトナシ聞ク所ニ依レハ關東軍側ノ

當方面諸懸案ノ内容ニモ通セス又事實ニモ迂遠ナルカ如ク
之ヲ要スルニ南京發大臣宛電報第八〇七號唐有壬ノ内話ハ

感セラルルニ付今後ノ必要モアルヲ以テ今少シク眞相ヲ明カニシタル上黃郛等ノ去就ニ付言動スル様指導方御配慮ヲ請フ

大臣、南京、天津、滿洲へ轉電セリ

251 昭和9年7月21日

在中國有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

通郵および航空連絡などに關する関東軍提案に対

しまず関東軍撤兵や保安隊整理など停戦協定区域

内の諸問題清算を黃郛要望と唐有壬内話について

付記 七月二十四日付

大連會議における諒解事項

本省 上海 7月21日後着
7月21日後発

第五九三號(極秘)

(¹) 本使發北平宛電報第三五號ニ關シ(通郵航空問題ノ件)

二十日唐有壬カ極秘トシテ有野ニ内話スル處ニ依レハ

一、關東軍側ノ提案ハ素ヨリ正式ノモノニアラサル簡単ナル

一ツ書(何等ノ説明又ハ要求ノ表示ナク只殷同カ柴山ヨ

リ實行方ノ希望ヲ口頭ニテ聞キタル趣ナリ)ニシテ殷同カ今回南下スル前北平ニテ柴山ヨリ同人ニ手交セラレタルモノニシテ其ノ内容ハ滿支兩國間ノ郵便聯絡及航空聯絡(南京發閣下宛電報第八〇七號ノ)御參照尙航空ニ付テハ聯絡箇所等指定シ居ラサル由ノ外電信、電話聯絡モ含マレ居ルトノコトニテ

二、右ニ對シ支那側ニテハ目下對策研究中ナルカ差當リ此ノ種問題ニ對スル原則ヲ定ムル必要アリトシ其ノ原則トシテハ

(一) 滿支ト云フカ如ク滿洲國ヲ相手方トスルコトハ承認シ得ス依然關東軍ヲ相手方トスルコト

(二) 停戰協定乃至關係善後取極ノ範圍外ノ事項ハ相談ニ應シ得サルコト

(三) 滿洲國ノ機關ヲ中國內ニ設クルコトハ絕對ニ應シ得サルコト

等ノ方針ヲ先ツ定ムヘシトノ意見出テ居ルモ未タ確定ノ程度ニハ至ラサル由語リタル趣ナリ

(三) 尚唐ハ黃郛ハ戰區内ニ於ケル既往ノ諸問題モ清算セラレス政府ニ對シ又國民ニ對シ責任ヲ感シ居ル折柄(此ノ點

ニ付最近莫干山ヨリ歸滬シタル李十一^(釋)ハ前日有野ニ對シ戰區内各所ニ於ケル日本軍ノ駐屯、保安隊ニ對スル干渉、

日本側ノ威ヲ籍リテ跋扈シ居ル不正業者多倫方面ニ於ケル日滿軍ノ侵入等ノ諸問題ハ支那側ニテ最モ清算ヲ希望

シ居ル點ナル由語リタル趣ナリ)更ニ既往ノ地方的取極

ヲ切掛ニ支那全般ニ關係ヲ及ホス右ノ如キ提案アルニ對

シ頗ル當惑シ居リ今ノ所北上スルモ自信ナシトテ歸任ヲ

躊躇シ居レルカ何レ中央ノ方針決定セハ一度江西ニ赴キ

蔣介石トモ打合ノ上北上スル意嚮ナル由語リタル趣ナリ

(右ニ對シ有野ハ黃カ徒ニ南方ニ引籠リ北方ヨリノ使者

及電報ノミヲ相手トシ彼是ト惱ムヨリハ速ニ歸任シテ關

東軍側ト折衝ヲ進メ又意思ノ疎通ヲ計リ自ラ懸案ノ處理

ニ當ルコト當面ノ急務ナルヘシト告ケ置キタル由)

殷同ハ二十日莫干山ヨリ來滬シタルカ二十一日當地發秘密

裡ニ海路滿洲ニ赴ク由有野ニ語リタル趣ナリ

北平、南京へ轉電セリ

三 東陵保護ノ件

華北政權側ニ於テ東陵ヲ修築シ保護ヲ完全ナラシムルニ

諒解事項

（付記）

華北政權側ニ於テ東陵ヲ修築シ保護ヲ完全ナラシムルニ

於テハ該警備隊(滿洲國軍)ヲ撤退セシム

四、通郵原則ハ成ルヘク速カニ北戴河ニ於テ協議ス
 五、多倫地區ニ關シテハ成ルヘク速カニ辦法ヲ研究ス
 六、戰區ヲ正常化スル爲外交交渉ニ移スコトハ原則トシテ異存ナシ

尙右ノ外左ノ件ヲ諒解セリ

一、大東公司ハ合法的辦法ヲ講究ス

二、航空連絡ニ關シテハ機ヲ見テ柴山中佐ニ於テ促進ヲ圖ル又懇談ノ際岡村副長ハ殷同ニ對シ山海關ニ於ケル支那側稅關課稅法ノ不合理ナル點ヲ指摘シ反省改善ヲ促セリ

編注 七月二十四日、大連において岡村寧次閏東軍參謀副

長、喜多誠一同參謀、柴山兼四郎在中国公使館付武官補佐官および殷同北寧鐵路局長が会合し、中國側より戰區正常化のため新たな政治協定の締結、関東軍の撤兵、保安隊の整理などを要望し、日本側より停戦協定善後処理に関する申合わせ事項中未解決の通郵、設関、航空連絡問題などにつき急速解決を要求した。本諒解事項はその際に合意、作成されたものである。

(以上)

なお本諒解事項は東亜局第一課が昭和九年十二月に作成した議会調書「最近支那諸問題摘要(第六十七回議會用)上巻」より採録した。

252 昭和9年8月17日

在満州國菱刈大使より
廣田外務大臣宛(電報)

山海關の中國側稅關に対し我が方特務機關より同地駐在満州國機關公用物件への課稅免除などを要求について

別電 八月十七日發在満州國菱刈大使より廣田外務

大臣宛第一〇一〇号

右要求に対する稅關側回答

新京 8月17日後発

本省 8月18日前着

第一〇〇九號

山海關特務機關ヨリ當地軍ヘノ電報ニ依レハ同機關長ハ七月二十五日秦皇島稅務司「アスカ」ト山海關稅關問題ニ付會談シタル際左記五項ニ關シ申入ヲナシ置キタル處八月十三日ニ至リ同稅務司ヨリ總稅務司ノ指示ニ基ク趣ヲ以テ別

電第一〇一〇號ノ通り回答アリタル由ナリ

一、山海關駐在滿洲國機關公用物件ニ對スル輸入稅ヲ免除セラレタキコト

二、奉山線及滿洲國郵便局到着貨物ニシテ滿洲國領土内ニ仕向ケラレタルモノニ對シテハ輸入稅ヲ課セサルコト

三、鐵道又ハ郵便ニ依リ到着シタル貨物ニシテ受取人力再度滿洲國ニ送リ返ス場合ニハ課稅セサルコト

四、既ニ約束セル滿洲國郵便局内ニ支那稅關吏派遣ノ件ヲ速ニ實現スルコト

五、課稅方法ヲ穩當ナラシムルコト之カ爲山海關ニ日本語ヲ解スル官吏ヲ派遣スルコト

本電別電ト共ニ支、北平、天津へ轉電セリ
支ヨリ南京へ轉報アリタシ

(別電)

新京 8月17日後発

本省 8月18日前着

第一〇一〇號

一、二關シテハ特務機關ノ證明ニ依リ當分課稅ヲ免除ス

五、二關シテハ課稅方法ニ付テハ支那領土内ニ於ケル一般的手續ニ據ルモノニシテ各專門家ヲ配置シ法規ニ基キ實施シツツアルヲ以テ山海關ノミ不適^(アマ)ナル筈無シ若シ穩當ヲ缺ク事例アラハ隨時通報アリタシ尙日本語ヲ解スル官吏二名一兩日中ニ山海關稅關ニ着任ノ豫定

右課稅ニ關スル件ハ十四日ヨリ實行ス但以上ハ臨時便法トシテ認容サレタルモノニシテ將來南京政府ノ命令アル場合ニハ稅務司ニ於テ實行ヲ中止スヘキ旨示サレアリ(因ニ特務機關長ハ以上回答ノ要旨ヲ文書ニテ通告アリ度キ旨要求シタル處臨時處置故公文ヲ發シ難キモ陶尙銘ニハ通告シ置

クヘシト答ヘタル趣ナリ)

(一)長城ヨリ輸入スル外貨ハ現行ノ輸入税則ニ依リ徵收シ別
二百分ノ五ノ關稅附加稅及百分ノ五ノ救災附加稅ヲ徵收

ス
253 昭和9年8月18日 在天津田中總領事代理より
広田外務大臣宛(電報)

長城線各口への税関分所設置に関する天津税

関の布告について

天津 8月18日後発
本省 8月18日後着

第二二七號

長城線ニ於ケル稅關分所設置ニ關シ十六日同分所駐平辦事處ニ於テハ天津海關ノ名ヲ以テ大要左ノ如キ布告ヲ發セリ(北平ト打合濟)

財政部ヨリ行政院ノ指令ニ依リ古北口、喜峰口、冷口、界嶺口及義院口ノ五ヶ所ニ密輸取締ノ分所ヲ設置シ總テ長城通過ノ客貨物ハ同所ノ許可ヲ必要トシ副稅務司張勇年ヲ北平ニ常駐セシメ此等各分所事務ヲ管理セシムル旨訓令シ來リタル處既ニ古北口分所ニ於テハ本月二十二日事務ヲ開始スルコトトナリタルカ爾今長城通過ノ客貨物ニ對シテハ左記長城設關分所徵稅辨事法ニ照シテ徵收スヘシ

(五)略
(六)輸入稅、海關金單位ヲ以テ徵收ス但國幣ヲ以テ納入スル行辦法ニ依リ徵收ス
(四)長城ノ各關ヨリ輸出スル土貨ハ免稅トス

(三)長城ノ各口ヨリ輸入スル外貨ハ東省ノ產出品ニ對スル現場合ハ免稅ス

(二)既ニ輸入稅ヲ納入セル外貨ヲ長城ノ各分所ヨリ輸出スル

斯

(一)長城ノ各關ヨリ輸入スル外貨ハ現行ノ輸入税則ニ依リ徵收シ別
二百分ノ五ノ關稅附加稅及百分ノ五ノ救災附加稅ヲ徵收

徵收暫行辦法、

(一)長城ヨリ輸入スル外貨ハ現行ノ輸入税則ニ依リ徵收シ別
二百分ノ五ノ關稅附加稅及百分ノ五ノ救災附加稅ヲ徵收

ス
253 昭和9年8月18日 在天津田中總領事代理より
広田外務大臣宛(電報)

(二)既ニ輸入稅ヲ納入セル外貨ヲ長城ノ各分所ヨリ輸出スル

場合ハ免稅ス

(三)長城ノ各口ヨリ輸入スル外貨ヲ長城ノ各分所ヨリ輸出スル現場合ハ免稅ス

(四)長城ノ各關ヨリ輸出スル土貨ハ免稅トス

(五)略
(六)輸入稅、海關金單位ヲ以テ徵收ス但國幣ヲ以テ納入スル行辦法ニ依リ徵收ス
(四)長城ノ各關ヨリ輸出スル土貨ハ免稅トス

(三)長城ノ各口ヨリ輸入スル外貨ハ東省ノ產出品ニ對スル現場合ハ免稅ス

(二)既ニ輸入稅ヲ納入セル外貨ヲ長城ノ各分所ヨリ輸出スル

斯

(一)長城ノ各關ヨリ輸入スル外貨ハ現行ノ輸入税則ニ依リ徵收シ別
二百分ノ五ノ關稅附加稅及百分ノ五ノ救災附加稅ヲ徵收

(七)八略
(八)略
(九)有稅ノ輸入貨物ニハ領事送狀ノ添付ヲ要ス然ラサル時ハ送狀一枚毎ニ付金單位五元ヲ徵收ス

(十)統稅ヲ代徵ス

(十一)客用自動車搭載ノ有稅品ニハ課稅ス

(十二)略

(十三)略

(十四)略

(十五)略

(十六)略

(十七)略

(十八)略

(十九)略

(二十)略

(二十一)略

(二十二)略

(二十三)略

(二十四)略

(二十五)略

(二十六)略

(二十七)略

(二十八)略

(二十九)略

(三十)略

(三十一)略

(三十二)略

(三十三)略

(三十四)略

(三十五)略

(三十六)略

(三十七)略

(三十八)略

(三十九)略

(四十)略

(四十一)略

(四十二)略

(四十三)略

(四十四)略

(四十五)略

(四十六)略

(四十七)略

(四十八)略

(四十九)略

(五十)略

(五十一)略

(五十二)略

(五十三)略

(五十四)略

(五十五)略

(五十六)略

(五十七)略

(五十八)略

(五十九)略

(六十)略

(六十一)略

(六十二)略

(六十三)略

(六十四)略

(六十五)略

(六十六)略

(六十七)略

(六十八)略

(六十九)略

(七十)略

(七十一)略

(七十二)略

(七十三)略

(七十四)略

(七十五)略

(七十六)略

(七十七)略

(七十八)略

(七十九)略

(八十)略

(八十一)略

(八十二)略

(八十三)略

(八十四)略

(八十五)略

(八十六)略

(八十七)略

(八十八)略

(八十九)略

(九十)略

(九十一)略

(九十二)略

(九十三)略

(九十四)略

(九十五)略

(九十六)略

(九十七)略

(九十八)略

(九十九)略

(一百)略

(一百一)略

(一百二)略

(一百三)略

(一百四)略

(一百五)略

(一百六)略

(一百七)略

(一百八)略

(一百九)略

(一百二十)略

(一百二十一)略

(一百二十二)略

(一百二十三)略

(一百二十四)略

(一百二十五)略

(一百二十六)略

(一百二十七)略

(一百二十八)略

(一百二十九)略

(一百三十)略

(一百三十一)略

(一百三十二)略

(一百三十三)略

(一百三十四)略

(一百三十五)略

(一百三十六)略

(一百三十七)略

(一百三十八)略

(一百三十九)略

(一百四十)略

(一百四十一)略

(一百四十二)略

(一百四十三)略

(一百四十四)略

(一百四十五)略

(一百四十六)略

(一百四十七)略

(一百四十八)略

(一百四十九)略

(一百五十)略

(一百五十一)略

(一百五十二)略

(一百五十三)略

(一百五十四)略

(一百五十五)略

(一百五十六)略

(一百五十七)略

(一百五十八)略

(一百五十九)略

(一百六十)略

(一百六十一)略

(一百六十二)略

(一百六十三)略

(一百六十四)略

(一百六十五)略

(一百六十六)略

(一百六十七)略

(一百六十八)略

(一百六十九)略

(一百七十)略

(一百七十一)略

(一百七十二)略

(一百七十三)略

(一百七十四)略

(一百七十五)略

(一百七十六)略

(一百七十七)略

(一百七十八)略

(一百七十九)略

(一百八十)略

(一百八十一)略

(一百八十二)略

(一百八十三)略

(一百八十四)略

(一百八十五)略

(一百八十六)略

(一百八十七)略

(一百八十八)略

(一百八十九)略

(一百二十)略

(一百二十一)略

(一百二十二)略

(一百二十三)略

(一百二十四)略

(一百二十五)略

(一百二十六)略

(一百二十七)略

(一百二十八)略

(一百二十九)略

(一百三十)略

(一百三十一)略

(一百三十二)略

(一百三十三)略

(一百三十四)略

(一百三十五)略

(一百三十六)略

(一百三十七)略

(一百三十八)略

(一百三十九)略

(一百四十)略

(一百四十一)略

(一百四十二)略

(一百四十三)略

(一百四十四)略

(一百四十五)略

(一百四十六)略

(一百四十七)略

(一百四十八)略

(一百四十九)略

(一百五十)略

(一百五十一)略

(一百五十二)略

(一百五十三)略

(一百五十四)略

(一百五十五)略

(一百五十六)略

(一百五十七)略

(一百五十八)略

(一百五十九)略

(一百六十)略

(一百六十一)略

(一百六十二)略

(一百六十三)略

(一百六十四)略

(一百六十五)略

(一百六十六)略

(一百六十七)略

(一百六十八)略

(一百六十九)略

(一百七十)略

(一百七十一)略

(一百七十二)略

(一百七十三)略

(一百七十四)略

(一百七十五)略

(一百七十六)略

(一百七十七)略

(一百七十八)略

(一百七十九)略

(一百八十)略

(一百二十一)略

(一百二十二)略

(一百二十三)略

(一百二十四)略

(一百二十五)略

(一百二十六)略

(一百二十七)略

(一百二十八)略

(一百二十九)略

(一百三十)略

(一百三十一)略

(一百三十二)略

(一百三十三)略

(一百三十四)略

(一百三十五)略

(一百三十六)略

(一百三十七)略

(一百三十八)略

敵トナルヤモ計ラレススクノ如キコトトモナラハ東亞全局ノ爲不幸此ノ上無シ此ノ點ニ於テ貴國政府ノ背景ニアル國民黨中所謂歐米派ト稱セラルル指導者等ノ對日態度ハ危險千萬ナリト述ヘタル處

唐ハ國民黨ノ精神ハ元來孫文ノ根本觀念タル日支提携ニアルニ拘ラス誤解サレ居レリト種々辯明ノ上歐米派ト謂フモ要ハ國家ノ利益ヲ顧念シ日支接近ノ得策ナルヲ了解シ居リ現ニ獨逸出身ノ朱家驛ノ如キ日支接近ニ熱心ニシテ顧孟餘ノ如キ最日本ニ對シ了解ヲ有シ居レリト説明セリ(但シ宋子文一派ノ米國系ニハ言及セス又本官ヨリ日支間ノ現狀ニ於テハ未タ政治的及軍事的ノ提携ハ困難ナルヘキモ經濟的又ハ文化的協調ノ努力ハ弗々始メサルヘカラサル處例ヘハ我對支文化事業ノ如キ今少シク效果的ナラシムル妙案ナキヤト問ヒタル處唐ハ極メテ忌憚ナク言ヘハ日本ノ文化事業ハ餘リニ日本ノ立場ノミヲ考慮セル主我的遣口ニシテ却テ支那側ノ反感ヲ招キ居リ勞多クシテ效無カルヘシト答ヘ(此ノ點ハ過日本官黃郛ト會談ノ際黃モ同様ノ意見ヲ洩シ居タリ)別ニ具體的考案ヲ示ササリシニ付本官ヨリ米國主義和團賠償金ヲ以テ將來ノ人材ヲ作ル爲留學生ノ養成ニ努

業ハ餘リニ日本ノ立場ノミヲ考慮セル主我的遣口ニシテ却テ支那側ノ反感ヲ招キ居リ勞多クシテ效無カルヘシト答ヘ(此ノ點ハ過日本官黃郛ト會談ノ際黃モ同様ノ意見ヲ洩シ居タリ)別ニ具體的考案ヲ示ササリシニ付本官ヨリ米國カ

(付記)
支那特報第一號
昭和十年一月十五日

軍令部

三 華北問題

(1) 第一次會議九月二十八日ヨリ北平ニ於テ開催サレシガ
ニ切手ノ使用スル場合ニモ正規ノ料金ヲ納付セリ
トシテ會議ニ參加スルコトナレリ
佐ノ外柴山北平武官、殷同、李擇一モ「オブザーバー」
トシテ會議ノ經過

323

メ居ルハ頗ル卓見ニアラスヤト尋ネタル處唐ハ實ハ最近日本へ赴ク留學生增加セルハ單ニ圓爲替ノ下落ニ基クモノニシテ國民一般ノ風潮ハ腹藏ナク言ヘハ日本留學ヲ喜ハサル實狀ナレハ文化事業トシテ日本留學ヲ獎勵セントスルモ未タ其ノ時期ニアラサルヘシト答ヘタリ依テ本官ヨリ然ラハ英國ノ如ク鐵道道路等ノ建設事業ニ放資スルカ或ハ伊國ノ如ク同賠償金ヲ以テ飛行機又ハ飛行教官ノ費用ニ投スル方法(過般「ロンドン、タイムズ」記事ニ言及シ)モアル處貴見如何ト問ヘル處唐ハ英國ノ方法ニ付何等評論ヲ加ヘサリシカ伊國ノ賠款ヲ飛行機等ニ充當セルカ如キコトハ全然誤報ニシテ同賠款ノ使途明細表ヲ見レハ其ノ風説ノ無根ナルコト明カナリト辯明セリ

尙唐ハ廿五日頃當地發南京ヘ歸任ノ由ナリ

支、南京ヘ轉電セリ

第一、滿支通郵問題ノ解決
第二、滿支設關問題ノ解決(イ) 細旨次省略

(一) 通郵問題ノ範圍
(二) 切手面ノ國名標記
(三) 料金

第一、通郵會議開催前ノ狀況
滿支通郵問題ハ豫テ關東軍ニ於テ通車問題ニ引續キ之力解決ヲ期シ、昨春支那側ニ對シ交渉速開ヲ要望スル所アリ而シテ支那側ハ當初著シク難色ヲ示シタルガ八月中旬蘆山會議ニ於テ概ネ黃郛ノ希望通り之ガ交涉方針ノ決定ヲ見タルモノノ如ク九月下旬黃郛ノ北平歸任ト共ニ急ニ交渉開始ノ運ビトナレリ
此ニ於テ關東軍ハ滿洲國交通部藤原郵政司長以下三名ヲ軍囑託トシ、支那側ハ九月十日上海郵政總局主任秘書高宗武以下三名ヲ夫々委員ニ任命シ、九月二十六日頃相前後シテ北平ニ赴カシメタリ、又山海關特務機關長儀我大佐ノ外柴山北平武官、殷同、李擇一モ「オブザーバー」トシテ會議ニ參加スルコトナレリ

(一) 通郵ハ滿洲國ナル文字ヲ表示セサル新切手ニ依リ實包、爲替等ハ一月二十日ヨリ實施スルモノトス
(二) 新切手ハ封書、葉書、書留、各種郵便物ニ使用セラルルモノヲ調整シ努メテ之ヲ使用スルコトスルモ在來ノ切手ヲ使用スル場合ニモ正規ノ料金ヲ納付セリト認メラルモノニ對シテハ不足稅ヲ徵收セサル

322

コト

(三)通郵ニ關スル事務ハ双方郵政機關ノ間ニ之ヲ行フ

(四)日附印ハ成ル可ク歐文ノモノヲ用フルコト

(五)通常郵便料金ハ郵政廳各自ノ定ムル所ニ依ル

右最後案ニ對シ黃郛、殷同、李擇一等北支政權派ハ大體同意ヲ表シタルモ主席委員高宗武ハ飽ク迄中間機關

ノ設置ヲ主張シテ讓ラズ改メテ中央ノ訓令ヲ仰ギタルモノノ如シ、一方南京方面ニテハ反汪策動ニ關聯シテ

通郵反對ノ空氣熾烈トナリ十一月十四日ノ中政會議ニ於テハ支那側ノ提案サヘモ之ヲ否定セントスルノ形勢

アリ爲ニ一時其ノ成行憂慮サレタルガ適々蔣介石ノ北平入りニヨリ黃、蔣直接談合スルトコロアリ次テ蔣介

石、汪精衛等ノ中央ニ於ケル斡旋ニ依リ交通部長朱家驥等ノ態度漸次緩和サレタリ

三、協定ノ成立

斯クテ十一月二十三日双方委員徹宵協議ノ結果支那側ハ二十四日滿洲國承認問題ニ觸レサル原則ニ基キ關東軍提案(左記①ノ如キ申合)ヲ全部承認シテ茲ニ基本的協定ノ成立ヲ見タリ、爾後通郵委員ハ本申合ヲ基礎トシ引續キ

技術會議ヲ行ヒ十二月十四日北平「ホテル」ニ於テ最終會議ヲ開キ正式調印ト共ニ通郵會議ヲ終了セリ

(1)通郵ニ關スル申合事項

(關東軍側ヲ甲、中華民國側ヲ乙ト略稱ス)

(一)通郵ハ双方郵政機關ノ間ニ於テ行フモノトス、之ガ爲山海關、古北口ニ交換機關ヲ設ク

(二)通郵ニ用フル甲ノ切手面ニハ「滿洲國」及「滿洲」ナル文字ヲ表示セザルコト

右切手ハ書狀、端書、書留、速達ニ使用スルモノヲ

尠クモ四種類以上ヲ調製シ努メテ之ヲ貼用ス

(三)日附印ハ甲ニ在リテハ成ル可ク現用歐文ノモノヲ用

フルコト

(四)郵便料金ハ郵政廳各自ノ定ムル所ニ依ルコト

(五)通郵事務ニ關スル文書ハ西曆ヲ用ヒ成ル可ク「滿洲國」及「滿洲」ナル文字ヲ表示セザルコト

(六)通郵實施期日ハ明年一月十日トシ同月五日頃之ヲ公示ス但シ小包、爲替ハ同年二月一日ヨリ實施ス

(註 公表ハ十二月二十一日ニ變更セラレタリ)

(七)西伯利亞通過郵便物ハ舊例ニ依リ處理スルコト

(八)本申合ノ變更ハ相互ノ協議ヲ經ルコト

(九)右趣旨ニ依リ滿華間郵便交換ニ關スル暫行辦法及滿華間郵便爲替交換ニ關スル暫行辦法別冊(略ス)ノ通

リ作製ス

(四)申合ニ關スル諒解事項

(一)通郵ニ關スル申合ハ協議ノ上發表スル部分ヲ除キ全
部公表セズ且惡意ノ宣傳ヲ爲スヲ得ズ

「通郵ハ双方郵政機關ノ間ニ於テ行フコト」ヲ發表

セザルコト勿論トス

(二)甲ハ通郵ニ用フル新切手ノ模様ヲ豫メ乙ニ示ス

(三)乙宛郵便物ニハ新切手ヲ使用スル様甲ハ誠意ヲ以テ努力ス

(四)乙ハ甲ヨリ差出ス郵便物ニシテ成規^(正カ)ノ料金ヲ納付セリト認ムベキモノニ對シテハ一般切手ヲ貼用ノモノ

ニ付テモ不足料金ヲ徵收セズ但シ甲ハ右一般切手ノ貼用ヲ最少限度ニ止メシムルコト

(五)甲ハ歐文日附印現用ノ局ニアリテハ歐文日附印ヲ使用ス

四、通郵ノ實施

豫定ノ如ク一月十日山海關及古北口ニ匯通轉遞局ヲ設置シテ通郵開始サレタルガ宛名ニ「滿洲」及「滿洲國」又ハ新省名、地名ヲ用ヒタル郵便物ヲ支那郵便局ガ受付ケザル爲物議ヲ釀シ北平陸軍武官ヨリ黃郛ニ對シ之ガ是正方ヲ要求シタル所黃郛ハ通郵ノ本旨ニ沿フ如ク適當ナル内規ヲ制定スル旨約シタリト

協定ヲ行フコトトナレリ

軍と中國側との間に協議会開催について

北平 12月15日後発
本省 12月15日後着

(一)電信ハ通郵實施後速ニ双方ノ電信線ヲ山海關ニ於テ接続、連絡通信ヲ實施ス

右回線ノ接續ニ際シテハ山海關特務機關長幹旋ノ下ニ技術的打合ヲ爲スコト

(二)双方ハ前項連絡通信實施ト共ニ電報通話數及電話通話時數ノ記録ヲ爲スコト

(三)連絡通信ニ關スル料金問題其ノ他事務打合ノ爲連絡通信實施後ナルベク速ニ〇〇ニ於テ事務擔當者ノ會合ヲ催スコト

編注 「第二、滿支設關問題ノ解決」は省略。

(終)

255 昭和9年12月15日

在中国若杉公使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

長城線各口における中國側および滿州國側稅

關間の相互連絡を目的とする「設關ニ關スル申合事項」妥結について

機密第八四二號

昭和九年十二月二十六日 (昭和10年1月14日接受)
在中華民國日本公使館
大使館參事官 若杉 要(印)

昭和9年12月26日 在中國若杉大使館參事官より
廣田外務大臣宛

256

(別紙)

設關ニ關スル申合事項

昭和九年十二月十九日關東軍代表源田松三、平野馨、内田孝、大高洋太郎、同參與員儀我誠也、柴山兼四郎ト北平政整會代表殷同、殷汝耕、同參與員阿客爾、張勇年ト北平二會同シ概ね山海關ヨリ古北口ニ至ル長城線ニ於ケル設關ニ關スル臨時辦法ニ付左ノ通申合ヲ爲セリ

一、設關竝稅關事務一般ニ亘り相互ニ連絡協助ヲ爲スモノトス

二、鐵道ニ依ル出入貨物及旅客攜帶品ニ對シ雙方稅關ニ於テ検査ヲ必要トスル場合ニ於テハ左記辦法ニ依ルモノトス

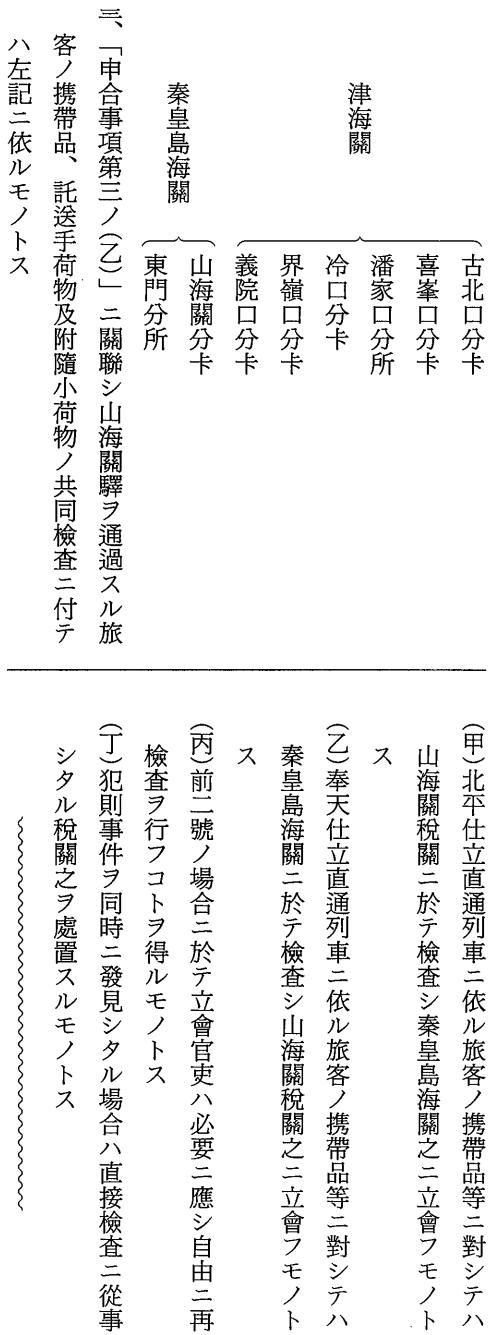
(甲)一般貨物ニ對シテハ貨物仕出側稅關官吏ニ於テ検査シタル後仕向側稅關官吏ニ於テ之ヲ検査スルモノトス

(乙)旅客ノ携帶品託送手荷物及附隨小荷物ハ山海關停車場ニ乘降スルモノハ同停車場ニ於テ又右停車場ヲ通過スル旅客ノ携帶品ハ車内ニ於テ検査ヲ爲シ託送手荷物、附隨小荷物並車内ニ於テ検査ヲ不便トスル旅客ノ

スル旅客ノ携帶品ハ車内ニ於テ検査ヲ爲シ託送手荷物、附隨小荷物並車内ニ於テ検査ヲ不便トスル旅客ノ携帶品ハ檢査場ニ卸サシメ之ヲ行フコトトシ検査ハ原則トシテ兩稅關官吏同時ニ之ヲ行フモノトス

本信寫付先 公使

上海 天津 濟南 青島 漢口 南京
廣東 福州
在滿大使



三、陸路又ハ水路ニ依リ出入スル貨物及旅客ノ携帶品ニ對シ
テハ可成同一場所ニ於テ共同シテ検査ヲ爲スモノトス此
ノ場合ニ於ケル検査方法ハ前項(甲)ノ例ニ準ス

四、密貿易其ノ他犯則ノ取締ニ付テハ雙方稅關ハ左ノ各項ニ
依リ互ニ協力スルモノトス

(甲) 密貿易其ノ他犯則ノ調査取締ニ付互ニ便宜ヲ供與ス
ルコト

(乙) 犯則事件ハ之ヲ發見シタル稅關ニ於テ處置スルコト

五、長城線以東及以北ノ地ヨリ鐵道又ハ郵便ニ依リ山海關ニ
到着シタル貨物ニシテ天下第一關經由原裝ノ儘長城線以
東及以北ノ地ニ搬出セラルモノ若ハ陸路ニ依リ天下第
一關經由山海關驛又ハ郵局ニ到着シタル貨物ニシテ再ヒ
長城線以東及以北ノ地ニ搬出セラルモノニ付テハ申請
ニ基キ稅金ノ拂戻ヲ爲スモノトス

六、長城線以東及以北ノ地ヨリ山海關驛又ハ郵局ニ到着シ引
受人ニ引渡ヲ爲サスシテ(其ノ儘)長城線以東及以北ノ地
ニ搬出スル貨物ニ付テハ課稅セサルモノトス

七、長城線以南及以西ノ地域所在ノ關東軍指定ノ諸機關公用
品ニ對シテハ關東軍ノ證明ニ依リ輸入稅ヲ免除スルモノ

三、陸路又ハ水路ニ依リ出入スル貨物及旅客ノ携帶品ニ對シ
テハ可成同一場所ニ於テ共同シテ検査ヲ爲スモノトス此
ノ場合ニ於ケル検査方法ハ前項(甲)ノ例ニ準ス

四、密貿易其ノ他犯則ノ取締ニ付テハ雙方稅關ハ左ノ各項ニ
依リ互ニ協力スルモノトス

(甲) 密貿易其ノ他犯則ノ調査取締ニ付互ニ便宜ヲ供與ス
ルコト

(乙) 犯則事件ハ之ヲ發見シタル稅關ニ於テ處置スルコト

五、長城線以東及以北ノ地ヨリ鐵道又ハ郵便ニ依リ山海關ニ
到着シタル貨物ニシテ天下第一關經由原裝ノ儘長城線以
東及以北ノ地ニ搬出セラルモノ若ハ陸路ニ依リ天下第
一關經由山海關驛又ハ郵局ニ到着シタル貨物ニシテ再ヒ
長城線以東及以北ノ地ニ搬出セラルモノニ付テハ申請
ニ基キ稅金ノ拂戻ヲ爲スモノトス

六、長城線以東及以北ノ地ヨリ山海關驛又ハ郵局ニ到着シ引
受人ニ引渡ヲ爲サスシテ(其ノ儘)長城線以東及以北ノ地
ニ搬出スル貨物ニ付テハ課稅セサルモノトス

七、長城線以南及以西ノ地域所在ノ關東軍指定ノ諸機關公用
品ニ對シテハ關東軍ノ證明ニ依リ輸入稅ヲ免除スルモノ

本申合ニ關聯スル諒解事項

一、「申合事項第一」ノ趣旨ニ基キ雙方ノ稅關ハ長城線出入
貨物ノ課稅辦法、通關ニ關スル規則其ノ他必要事項ヲ相
互ニ通報スルモノトス

二、「申合事項第二」ニ關聯スル長城線ニ於ケル雙方ノ稅關
ノ現狀左ノ如シ

(甲) 關東軍側

古北口分關
興隆分卡
潘家口分卡
喜峯口分卡
冷口分卡
界嶺口分卡

(乙) 河北側

承德稅關
古北口分關
興隆分卡
潘家口分卡
喜峯口分卡
冷口分卡
界嶺口分卡

山海關稅關
山海關稅關本關
山海關稅關本關
九門口分卡(口外)
義院口分卡(口外)